

水道工事施工管理基準

令和8年4月

堺市上下水道局

目次

1. 水道工事施工管理基準総説	1
(1) 目的	1
(2) 適用範囲	1
(3) 管理の実施	1
(4) 構成	1
① 工程管理	2
② 出来形管理	2
③ 品質管理	2
④ 工事写真管理	2
⑤ 安全管理	2
(5) 規格値	2
(6) 是正措置	2
2. 出来形管理基準	3
(1) 出来形管理基準適用の留意点	3
(2) 測点の設置基準	3
(3) 各工種及び測定項目等	3
① 出来形管理基準表（共通項目）	3
② 出来形管理基準表（配水管布設工）	4
③ 出来形管理基準表（各種弁栓・コンクリートボックス据付工）	5
④ 出来形管理基準表（各種弁栓・レジンコンクリートボックス据付工）	8
⑤ 出来形管理基準表（各種弁栓・止水栓ボックス据付工）	10
⑥ 出来形管理基準表（塗覆装工）	11
⑦ 出来形管理基準表（水道施設構造物工）	12
⑧ 出来形管理基準表（シールド・推進工）	14
⑨ 出来形管理基準表（水管橋工）	15
⑩ 出来形管理基準表（立坑工）	17
⑪ 出来形管理基準表（本体仮設工）	18
3. 品質管理基準	19
(1) 品質管理基準適用の留意点	19
(2) 各種目別の品質規格	19
① 品質管理基準表（ポリエチレン管及び融着継手）	19
ア 最小曲げ半径	19
イ 切管長さ	20
ウ 冷却時間	20
エ 挿入量	20

オ	水圧試験（配水管に限る）	2 1
②	品質管理基準表（ダクタイル鋳鉄管及びメカニカル継手）	2 2
ア	ボルトの締付けトルク	2 2
イ	胴付間隔	2 3
ウ	施工時許容曲げ角度と許容偏位	2 6
エ	押輪とゴム輪の設置	2 7
オ	ロックリングの設置	3 1
カ	フランジ継手の接合状況	3 2
キ	挿し口加工寸法	3 3
ク	水圧試験	3 6
③	品質管理基準表（鋼管及び溶接継手）	3 6
ア	溶接	3 6
④	品質管理基準表（その他）	3 9
ア	コンクリート	3 9
イ	既設管充填	4 3
4.	工事写真管理基準	4 4
(1)	事前準備	4 4
①	撮影計画	4 4
②	マーキング	4 4
(2)	工事写真の撮影	4 4
①	工事写真の分類	4 4
ア	着手前及び完成写真	4 4
イ	施工状況写真	4 5
ウ	出来形管理写真	4 5
エ	材料確認写真	4 5
オ	品質管理写真	4 5
カ	安全管理写真	4 5
キ	災害・事故・その他	4 5
②	撮影内容の明示	4 5
(3)	工事写真の撮影要領	4 6
①	着手前及び完成写真	4 6
②	施工状況・出来形管理写真	4 6
③	材料確認写真	5 4
④	品質管理写真	5 5
⑤	安全管理写真	5 6
⑥	災害・事故・その他写真	5 7

(4) 撮影時の留意点	57
① 施工状況写真.....	57
② 出来形管理写真.....	57
③ 品質管理写真.....	57
④ 撮影時期.....	58
⑤ 撮影位置.....	58
⑥ 部分撮影.....	58
⑦ 撮影時の照明.....	58
⑧ 緊急報告の写真.....	58
(5) 工事写真等の提出	58
① 工事写真の原本.....	58
② 工事写真.....	58
③ アルバム.....	59
④ 提出部数.....	59
(6) 写真の整理	59
① 撮影写真の確認と保管.....	59
② 写真の整理方法.....	59
(7) その他注意事項	59
(8) デジタル工事写真の小黑板情報電子化基準	60
(9) 電子納品	61
(10) 写真撮影方法（例）	61
5. 出来形管理表と品質管理表（チェックシート）（例）	64
① 出来形管理表（土工事）	64
② 出来形管理表（弁・栓類）	64
③ 出来形管理表（弁・栓類 レジソコンクリートボックス）	64
6. 品質管理表（チェックシート）	65
① GX形継手(直管・P-Link) (φ75～450)チェックシート.....	65
② GX形継手(異形管・G-Link) (φ75～450)チェックシート.....	65
③ GX形継輪(φ75～450)チェックシート.....	65
④ NS形継手(φ75～250)チェックシート.....	65
⑤ NS形継手(φ300～450)チェックシート.....	65
⑥ NS形継ぎ輪(φ75～450)チェックシート.....	65
⑦ NS形継手(φ500～1000) (直管) チェックシート.....	65
⑧ NS形継手(φ500～1000) (ライナ、異形管) チェックシート.....	65
⑨ NS形継ぎ輪(φ500～1000)チェックシート.....	65
⑩ K形継手チェックシート.....	65

⑪	大平面座形フランジ継手チェックシート.....	6 5
⑫	溝形フランジ継手チェックシート (メタルタッチの場合)	6 5
⑬	溝形フランジ継手チェックシート (メタルタッチでない場合)	6 5
⑭	K形(離脱防止押輪)チェックシート.....	6 5
⑮	K形(二つ割離脱防止押輪)チェックシート.....	6 5
⑯	NS形継ぎ輪(φ75~450)(離脱防止押輪)チェックシート.....	6 5
⑰	NS形継ぎ輪(φ500~1000)(離脱防止押輪)チェックシート.....	6 5
⑱	EF接合チェックシート.....	6 5
⑲	メカニカル接合チェックシート.....	6 6
⑳	鋼管継手部チェックシート.....	6 6

1. 水道工事施工管理基準総説

この水道工事施工管理基準は、堺市上下水道局が発注する水道施設の建設工事、それに伴う舗装道路本復旧工事等（以下「水道工事」という。）の施工管理及び規格値の基準を定めるものである。この水道工事施工管理基準に記載のない事項については、堺市建設局土木部発行「土木工事施工管理基準及び規格値」によるものとする。

(1) 目的

この基準は、水道工事の施工について契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格等の確保を図ることを目的とする。

(2) 適用範囲

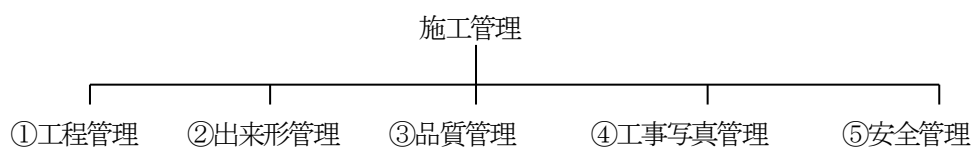
この基準は、水道工事について適用するが、設計図書に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この基準によりがたい場合は、監督員の承諾を得て他の方法によることができる。

なお、道路復旧等の施工管理については、各道路管理者等の定める基準によるものとする。

(3) 管理の実施

- ① 受注者は、工事着手前に、施工管理担当者及び施工管理計画を定めなければならない。
- ② 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- ③ 受注者は、管理の目的が達せられるように、測定（試験）等を工事の施工と並行して速やかに実施しなければならない。
- ④ 受注者は、測定（試験）等の結果を、逐次管理図表に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。
- ⑤ 受注者は、工事写真を施工管理の手段として各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を本基準の「4. 工事写真管理基準」により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提示するとともに、検査時に提出しなければならない。

(4) 構成



① 工程管理

受注者は、工程管理を工事内容に応じた方法（ネットワーク（PERT）又はバーチャート方式等）により作成した実施工程表により行うものとする。ただし、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

② 出来形管理

受注者は、出来形を本基準の「2. 出来形管理基準」に定める測定項目及び測定基準に基づいて管理するものとする。

③ 品質管理

受注者は、品質を本基準の「3. 品質管理基準」に基づいて管理し、品質管理図表等を作成するものとする。

④ 工事写真管理

受注者は、工事写真を本基準の「4. 工事写真管理基準」に基づいて管理するものとする。

⑤ 安全管理

受注者は、安全管理計画を策定し、工事中の安全確保及び災害防止等の安全対策を管理するものとする。

(5) 規格値

受注者は、本基準の「2. 出来形管理基準」及び本基準の「3. 品質管理基準」に基づいて測定した各実測（試験・検査・計測）値について、そのすべてが規格値を満足するように施工しなければならない。

(6) 是正措置

- ① 受注者は、全体及び重要な工種の工程に遅れが生じたときには直ちに原因を究明し、改善策を立案して、監督員と協議しなければならない。
- ② 受注者は、実測値が規格値を外れた場合には、直ちに原因を究明し、改善策を立案して、監督員に報告の上、その指示を受けなければならない。また、実測値が設計（規格）値に対し偏向を示す場合やバラツキが大きい場合は、直ちに原因を究明し、改善を図らなければならない。

2. 出来形管理基準

(1) 出来形管理基準適用の留意点

出来形管理基準の適用については、次のことに留意するものとする。

- ① 出来形管理は、出来形の検測が基礎であり、測定にあたっては正確に行わなければならない。
また、施工完了後、明視できない部分については、工事写真管理と併用して入念に測定し記録しておかなければならない。
- ② 各工事においては、原則として、後述する測点の設置基準に従って測点を定め、各測点等で出来形管理を行う。（各工種の測定基準により出来形管理表の作成等を行う。）
- ③ 伏せ越し等により土工断面が変化する箇所については、断面毎の掘削工に関する出来形管理を行う。また、その箇所の表記は、直近の測点からの距離を測定し、測点No. ○○+○○. ○○○m又は測点No. ○○-○○.○○○mとする。
- ④ 測点の位置については、あらかじめ施工計画書に記載する。
- ⑤ 道路復旧等の施工管理は、各道路管理者の定める基準によるものとする。

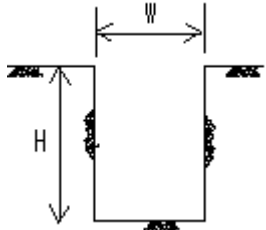
(2) 測点の設置基準

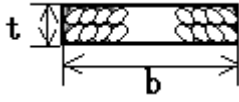
- ① 起・終点（ただし、施工延長が50m以下のものについては不要）
- ② 施工延長50m毎に1か所（ただし、施工延長が50m以下のものについては、起・終点間に2か所）
- ③ つぼ掘部の全箇所（給水管分岐箇所を除く。）
- ④ 給水管接合替工事箇所については、①及び②で定める各測点間に1か所

(3) 各工種及び測定項目等

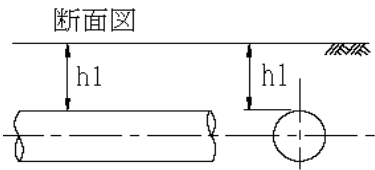
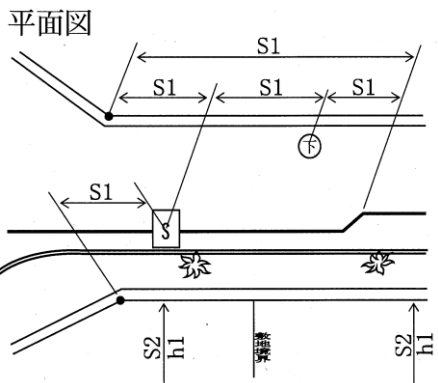
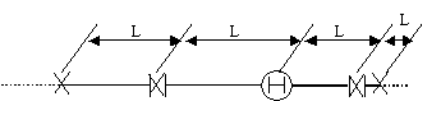
受注者は、出来形管理にあたり、監督員と設計数量との整合性について協議し、次の出来形管理基準表の各項目について測定し、適切な管理を行わなければならない。

① 出来形管理基準表（共通項目）

出来形管理基準				
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
ア 共通項目	土工 (試掘工) (掘削工)	幅 W 設計値以上 深さ H 設計値以上	各測点及び伏せ越し等により土工断面が変化する箇所で測定する。	

出 来 形 管 理 基 準				
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
ア 共通項目	基礎工 (碎石基礎) (栗石基礎)	幅 b 設計値以上 厚さ t 設計値以上	施工箇所毎に測定する。	
	仮復旧工 (舗装工) (路盤工)	堺市建設局土木部 発行「土木工事施 工管理基準及び規 格値」を適用	各測点で測定する。	

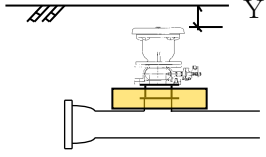
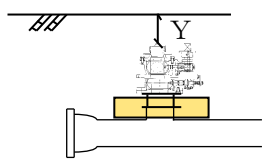
② 出来形管理基準表 (配水管布設工)

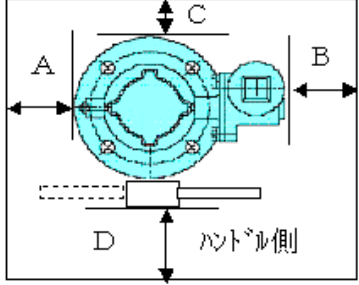
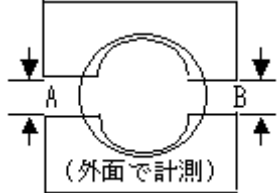
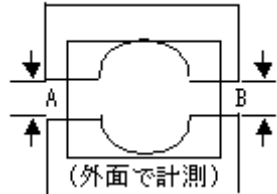
出 来 形 管 理 基 準				
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
イ 配水管 布設・ 撤去工	管 布 設 工 ・ 撤 去 工	土被り (h_1)	各測点及び伏せ越し等 により土被りが変化する 箇所測定する。	<p>断面図</p>  <p>平面図</p>  <p>オフセットに利用する固定物は、道路隅切りを原則とする。道路隅切りを利用するのが困難な場合は移設される可能性の低い地物（雨水樹、人孔、敷地境界等）とする。</p> <p>* 使用廃止管のオフセットは、起・終点とする。</p> 
		寄り (S_2) 官民境界から の水平距離	各測点及び切り回し等 により埋設位置が変化する 箇所測定する。また、 付属施設（バルブ等）につ いても測定する。	
		オフセット (S_1) (管理図表は不 要とする。)	起・終点、異形管、連絡 箇所、及び付属施設の位置 を、固定物から2点（必要 に応じて3点以上）測定 し、同時に土被り及び寄り についても測定し、しゅ ん工図に記載する。 * 曲管を使用（連続使用 含む）して曲げ配管した場 合は、曲げ角度の合計が 22 $1/2^\circ$ （布設管呼び径が 400 mm 以上の場合 11 $1/4^\circ$ ）以上になる箇所と する。また、複数の異形管 を連続して使用した箇所 については、その中のい ずれか1つの材料の位置と する。	
		新設・撤去・ 及び使用廃止 管の延長 (L) (管理図表は不 要とする。)	起・終点間と各弁栓類の 間隔を水平距離で測定す る。 * ただし、撤去及び使用 廃止管については、起・終 点間のみとする。	

出 来 形 管 理 基 準				
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
イ 配水管布設・撤去工	管防護工	コンクリート断面 (A,B,C,L,H)	施工箇所毎に測定する。	
		管下高 (h)		

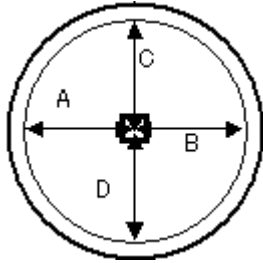
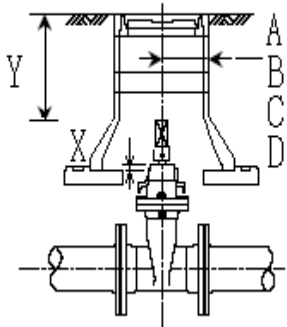
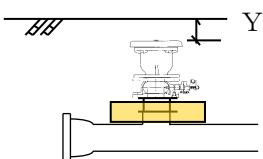
③ 出来形管理基準表（各種弁栓・コンクリートボックス据付工）

出 来 形 管 理 基 準				
測定対象		設置基準及び 規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
ウ 各種弁栓・コンクリートボックス据付工	仕切弁（弁体を残す不断水式簡易仕切弁も含む）	ボックス据付け位置 間隔 (A) 間隔 (B) 間隔 (C) 間隔 (D)	施工箇所毎に測定する。	
		露出弁棒 下端と スラブ上部 の差 (X)		
	キャップ位置 (Y)	(設置基準) G.Lから150以上 850未満 *ただし、継ぎ足し棒を設置した場合は、その先端部の位置とする。		

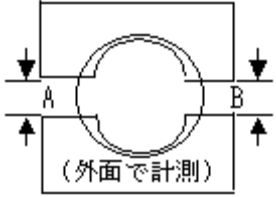
出 来 形 管 理 基 準				
測定対象		設置基準及び規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
ウ 各種弁栓・コンクリートボックス据付工	空気弁	高さ位置 (Y)	(設置基準) G.Lから150以上 300以下	
		空気弁の据付	(設置基準) 鉛直 (規格値) 傾斜角2度以内	
		長辺方向のボックス据付け位置 ボックス内壁との間隔 (A、B)	(設置基準) 間隔Aと間隔Bを同じにする。 (規格値) 間隔A-間隔B=±60 *ただし、補修弁の全開閉時にハンドルが内壁と接触してはならない。	
	短辺方向のボックス据付け位置 ボックス内壁との間隔 (C、D)	(設置基準) 間隔C (補修弁ハンドルの反対側) を30とする。 (規格値) -20 ~ +規格なし *ただし、間隔C ≤ 間隔Dとする。		
	接続口天端位置 (Y)	(設置基準) G.Lから150以上 300以下		
	消火栓 長辺方向のボックス据付け位置 ボックス内壁との間隔 (A)	(設置基準) 間隔A (口金側) を80にする。 (規格値) ±30 また、以下の条件を満たさなければならない。 ①補修弁の全開閉時にハンドルが内壁と接触しないこと ②口金及びハンドルが鉄蓋開口部内に配置されていること		

出 来 形 管 理 基 準				
測定対象		設置基準及び規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
	短辺方向のボックス据付け位置 ボックス内壁との間隔 (C、D)	(設置基準) 間隔C (補修弁ハットルの反対側) を30とする。 (規格値) -20 ~ +規格なし *ただし、間隔C ≤ 間隔Dとする。		
ウ 各種弁栓・コンクリートボックス据付工	スラブ スラブの間隔 (A、B)	(設置基準) 間隔Aと間隔Bを100とする。 (規格値) -50 ~ +100 間隔A - 間隔B = ±10 また、以下の条件を満たさなければならない。 ①弁栓類等がスラブに接触しないこと ②ボックスの外表面がスラブの外表面からはみ出さないこと ③ボックスの内壁がスラブを設置した際にできる円柱状の空洞部内にはみ出さないこと	施工箇所毎に測定する。	  図中の○及び□は、弁栓類のボックスの内壁の位置を示す。

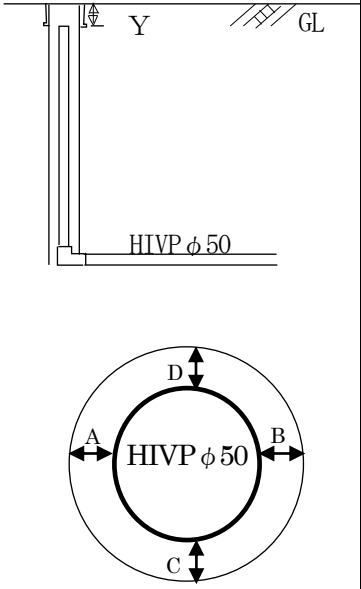
④ 出来形管理基準表 (各種弁栓・レジンコンクリートボックス据付工)

出来形管理基準						
測定対象		設置基準及び規格値 (mm)	測定基準	備考		
工種	測定項目					
ウ 各種弁栓・レジンコンクリートボックス据付工	仕切弁 (弁体を残す不断水式簡易仕切弁も含む)	ボックス据付け位置 間隔 (A) 間隔 (B) 間隔 (C) 間隔 (D)	(設置基準) 管軸方向 間隔 (A) = 間隔 (B) 管軸直角方向 間隔 (C) = 間隔 (D) (規格値) 管軸方向 間隔A-間隔B = ±60 管軸直角方向 間隔C-間隔D = ±60	施工箇所毎に測定する。	 <p>断面図</p>  <p>※キャップは操作可能なサイズとする</p>	
		露出弁棒下端と底版上部の差 (X)	(設置基準) φ50 -40~+60 φ75 -40~+85 φ100~ -40~+110 *底版下部より露出弁棒下端が上にあること。また底版が管体に接しないこと。融着後のターミナルピンが干渉する場合はピンを切断すること。			(参考Y値) Y50 = 451.5 (φ50, d=0.7m) Y75= 530 (φ75, d=0.8m) Y100= 497.5 (φ100, d=0.8m) Y150= 450 (φ150, d=0.8m) Y200= 380 (φ200, d=0.8m) Y300= 221.4 (φ300, d=0.8m)
		キャップ位置 (Y)	(設置基準) G.Lから150以上 850未満 *ただし、継ぎ足し棒を設置した場合は、その先端部の位置とする。			
ウ 各種弁栓・レジンコンクリートボックス据付工	空気弁	カバー位置 (Y)	(設置基準) G.Lから150以上 300以下	施工箇所毎に測定する。		
		空気弁の据付	(設置基準) 鉛直 (規格値) 傾斜角2度以内			

出 来 形 管 理 基 準				
測定対象		設置基準及び規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
	ボックス据付け位置 間隔 (A) 間隔 (B) 間隔 (C) 間隔 (D)	<p>(設置基準)</p> 管軸方向 間隔A = 間隔B 管軸直角方向 間隔C = 間隔D		
消火栓	接続口天端位置 (Y)	<p>(設置基準)</p> G.L から 150 以上 300 以下		
	ボックス据付け位置 間隔 (A) 間隔 (B) 間隔 (C) 間隔 (D)	<p>(設置基準)</p> 管軸方向 間隔 (A) = 間隔 (B) 管軸直角方向 間隔 (C) = 間隔 (D)	施工箇所毎に測定する。	
		<p>(規格値)</p> 管軸方向 間隔A-間隔B = -40~0 管軸直角方向 間隔C-間隔D = -60~0		

出来形管理基準				
測定対象		設置基準及び規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
ウ 各種弁栓・レジンコンクリートボックス据付工	スラブ 分割スラブの間隔 (A、B)	<p>(設置基準) 間隔Aと間隔Bを410とする。</p> <p>(規格値) 360~460 間隔A-間隔B=±10</p> <p>また、以下の条件を満たさなければならない。 ①弁栓類等がスラブに接触しないこと ②ボックスの外壁がスラブの外壁からはみ出さないこと ③ボックスの内壁がスラブを設置した際にできる円柱状の空洞部内にはみ出さないこと</p>	施工箇所毎に測定する。	 <p>図中の○は、弁栓類のボックスの内壁の位置を示す。</p>

⑤ 出来形管理基準表 (各種弁栓・止水栓ボックス据付工)

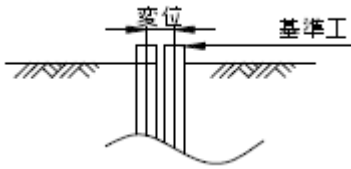
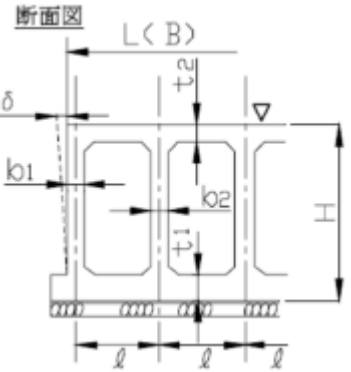
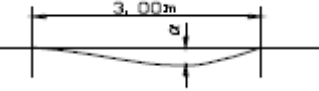
出来形管理基準				
測定対象		設置基準及び規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
ウ 各種弁栓・止水栓ボックス据付工	排水栓 (呼び径φ25mm) HIVPの管端位置(Y) ボックス内壁との間隔	<p>G.Lから150以下 (※1)</p> <p>(設置基準) 間隔A、間隔B、間隔C、間隔Dを同じにする。</p> <p>(規格値) 間隔A-間隔B=±30 間隔C-間隔D=±30</p>	施工箇所毎に測定する	

※1. 止水栓ボックスAの鉄蓋と干渉しない深さにすること

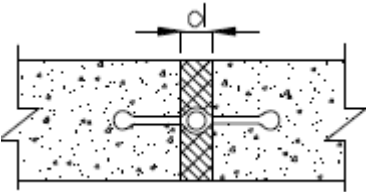
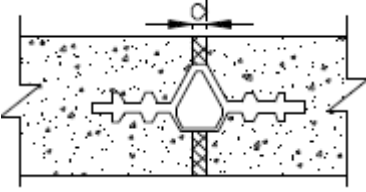
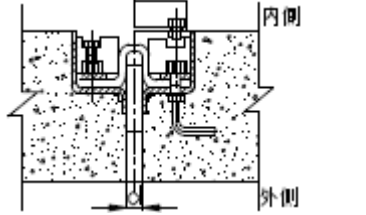

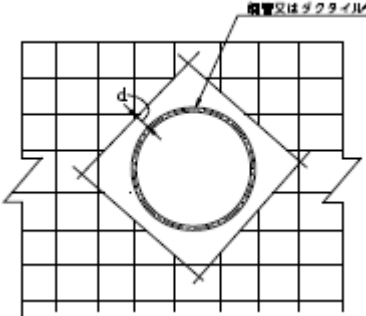
⑥ 出来形管理基準表（塗覆装工）

出 来 形 管 理 基 準				
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
エ 塗覆装工	熱収縮チユーブ又はシート ジョイントコート (外面)	工場塗装と重ね長さ	50 以上	実施箇所ごとに測定 ジョイントコート (長寿命形) JIS G 3443-3 JWWA K 153 WSP 012
		シートの円周方向の 重ね長さ	50 以上	
	水道用エポキシ樹脂 塗装 (内面)	塗装膜	0.5 以上	塗膜の厚さの検査は、電磁式 微厚計又は他の適当な測定器 具により測定する。ただし、 測定する箇所は円周方向でそ れぞれ500mm 間隔とする。 無溶剤形エポキシ樹脂塗 装 JWWA K 157 WSP 072 タールエポキシ樹脂塗装 JWWA K 115 JWWA K 135

⑦ 出来形管理基準表 (水道施設構造物工)

出来形管理基準					
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考	
工種	測定項目				
オ 水道施設構造物工	工 配水池基礎 基礎杭	基準高	±50	全箇所について測定する	D : 杭径
		偏心量 (a)	2方向ともD/4かつ100mm以内		
	砕石基礎 栗石基礎	幅	巾 設計値以上 厚さ 設計値以上	200 m ² に1箇所の割合で測定する	T : 厚さ
		厚さ	-10 平均値		
	矢板工	基準高	±50	延長20mごとに1箇所の割合で測定する(原則として、測点で測定する。)施工延長20m以下のものは2箇所測定する。	
		変位(ずれ)	100		
	配水池 鉄筋及び コンクリート構造物 1各部材の寸法	基準高▽	±25	1ブロック当たり3~5箇所測定する。	
		壁体の鉛直のずれ(δ)	±30	1面につき2~3箇所測定する。	
		支間寸法(ℓ)	+30 -25	1ブロック当たり、総支間数の1/20の割合で測定する。	
		断面寸法 ①柱・桁及び類似部材の断面寸法又は壁、床版、頂版及び類似部材の厚さ (b ¹ ・b ² ・t ¹ ・t ²)	規定寸法の2%以内及び+10 -5	①柱・桁類 1ブロック当たり、総数の各1/10の割合で測定する。 ②壁類 1ブロック当たり、総壁枚(面)数の各1/10の割合で測定する。 ただし、側壁は1面につき2~3箇所測定する。 ③床版・頂版類 1ブロック当たり3~5箇所測定する。	
		②平面長(L・L1・B・B1)	規定寸法の±1/1000	①1ブロックの縦・横方向の各2箇所測定する。 1池(区画)の全長の縦・横方向の各2箇所測定する。	
		③高さ(H)	±25	1ブロック当たり3~5箇所測定する。	
	2 仕上がり面	平坦性(a) (床版・頂版) ①金ゴテ仕上げ ②木ゴテ仕上げ	±5 ±7	直線定規等を3m区間に当てて測定したとき 施工規模に応じて、50~200m ² に1地点	

オ 水道施設構造物工

1 エキスパンション型 伸縮装置	取付け間隔(δ)	センターバルブ外径 (d)の1/4以下	5mごとに1箇所測定する。	
2 伸縮可撓吸収型	〃	〃	〃	
3 伸縮可撓波型	〃	〃	〃	
止水板	〃	〃	〃	
コンクリート構造物内への 鋼管・ダクタイル鉄管 マクロセル腐食対策	鋼管、ダクタイル 鉄管と鉄筋との隔 離	設計隔離に対し ± 20	管断面の0°、90°、180°、 270°の4箇所測定(各断面 の最小隔離距離 d を測定)	
薬品貯蔵ライニング補修 FRPライニング	ライニング 厚さ	0 ~ +5	1面あたり5箇所測定又は 30m ² 当たり5箇所測定	

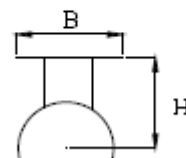
⑧ 出来形管理基準表 (シールド・推進工)

出来形管理基準						
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考		
工種	測定項目					
カ シールド・推進工	管理立坑 (本設)	基準高	-50	設計図に表示のある主要寸法について測定する。		
		立坑の長さ (内寸法) (L)	-30			
		〃 幅 (a)	-30			
		〃 高さ (h)	-50			
		〃 (h1・h2・ h3)	±20			
		〃 壁厚 (t1)	-20			
		〃 スラブ厚 (t3)	±20			
	シールド	一次覆工	基準高	±50	5リングごとに測定する。	
			中心線の水平変位	±50		
			真円度 (上下)	-		
			延長	-		
		二次覆工	管底高	±50	管底高は、施工延長 25mごとに1箇所測定する。 管径は、施工延長 50mごとに1箇所測定する。	
			中心線の水平変位	±50		
			管径 (上下)	±10		
			延長	-		
	推進工	基準高	±50	延長10mごとに1箇所の割合で測定する。ただし、小口径管 (径700mm以下) 推進は両端部とする。		
		中心線の水平変位	±50			
		延長	-			
	布設工	管中心高	±30	延長100mごとに1箇所の割合で測定する。延長100m未満の場合は、1箇所測定する。		
		延長	±100			
管防護工	断面(幅、厚さ等) (L・B・h ¹ ・ h ² ・h ³)	±50	実施箇所ごとに測定する。			
	管下高 (h)	±50				

	管閉塞工	断面(幅・厚さ等) ($a \cdot b \cdot b'$)	± 30	実施箇所ごとに測定する。	<p>断面図</p>
--	------	---------------------------------------	----------	--------------	------------

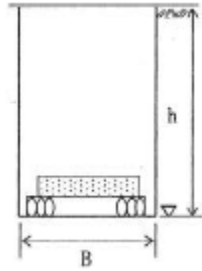
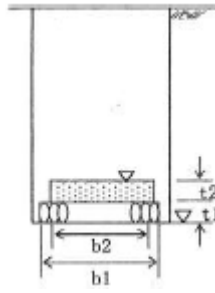
⑨ 出来形管理基準表 (水管橋工)

出来形管理基準					
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考	
工種	測定項目				
キ 水管橋工	橋台工	基準高	± 20	橋軸方向の断面寸法は、中央及び両端部、その他設計図に表示のある主要寸法について測定する。	
		橋台の天端長(L_1)	-30		
		橋台の敷長(L_2)	-30		
		橋台の天端幅 ($A \cdot a_1 \cdot a_2$) (橋軸方向)	-20		
		橋台の敷幅 (a_3) (橋軸方向)	-30		
		橋台の高さ (h_1)	-30		
		胸壁の高さ (h_2)	-20		
		床版の高さ (h_3)	-20		
		橋台間距離 (L)	± 30		
		中心線に対するずれ (δ_1) (橋軸方向)	± 30		
		中心線に対するずれ (δ_2) (橋軸直角方向)	± 30		
	鋼橋 (仮組立時)	全長・支間 (L)	$+L/1000$ -0 ただし、最小値+50mm		
製作キャンバー (δ)		+10% -0 ただし、最小1mm			
管体の通り (直進度)		仮組立支間任意の箇所について管軸芯に対し左右 ± 10			

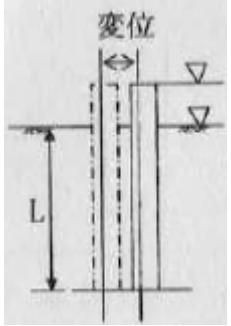
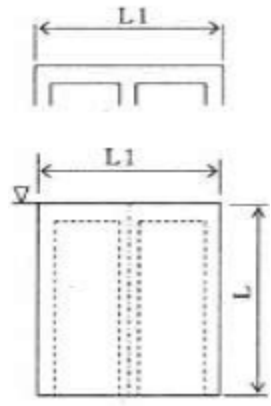
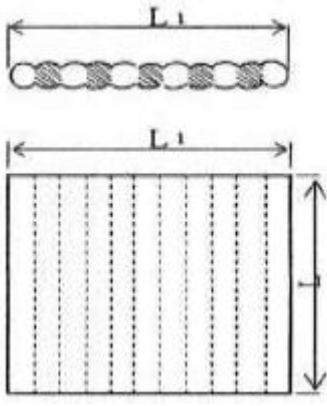


	桁・トラスの高さ(H)	±H/500 ただし、最小1mm		
	桁・トラスの中心間距離	±B/500 ただし、最小1mm		
	桁・トラスの通り	仮組立支間任意の箇所について管軸芯に対し左右±10		
	桁・トラスの鉛直度	±H/500 ただし、最大値10mm、最小値1mm		
	現場継手の目違い	板厚の10% ただし、板厚15mm以下については1.5mm以下		
塗膜厚	各塗装膜	各層設計膜厚以上	<p>塗膜厚の測定</p> <p>塗膜厚は、測定項目に示すとおり、下塗、中塗、上塗の各種ごとに測定する。合計膜厚は、設計膜厚以上とする。</p> <p>1 鋼橋（水管橋本体） 厚さは電磁微厚計その他により管軸方向に対し任意の3個所以上、その各個所の円周任意の4点で測定する。</p> <p>2 歩廊等（付属部材） 10m²につき1箇所測定する。</p>	

⑩ 出来形管理基準表 (立坑工)

出来形管理基準					
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考	
工種	測定項目				
ク 立坑工	立坑工	基準高	±30	1 施工箇所ごとに測定する。	
		寸法B	±100		
		高さh	±30		
	立坑土工	基準高	±30	1 施工箇所ごとに測定する。	
		砕石基準幅b1	-50		
		砕石基準厚さt1	-30		
		底版コンクリート基準高さ	±30		
		底版コンクリート幅b2	-30		
		底版コンクリート厚さt2	-10		

⑪ 出来形管理基準表 (本体仮設工)

出来形管理基準				
測定対象		規格値 (mm)	測定基準	備考
工種	測定項目			
ケ 本体仮設工	(H鋼杭・仮締切工 土留・仮締切工 鋼矢板)	基準高	±50	施工延長20m ごとにつき1箇所、20m未滿は1施工箇所につき2箇所測定する。 
		根入れ長L	設計値以上	
		変位	100	
	(コンクリート壁 地中連続壁工)	基準高	±50	基準高さは施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (または50m)以下のものについては1施工箇所につき、2箇所測定する。 
		地中壁の長さL1	-50	
		垂直変位	300	
		壁体長	-200	
	(ソイル壁 地中連続壁工)	基準高	±50	基準高さは施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (または50m)以下のものについては1施工箇所につき、2箇所測定する。 
		地中壁の長さL1	-50	
		垂直変位	D/4 以内	
		壁体長	-200	

3. 品質管理基準

この品質管理基準は、水道工事における現場での施工に対する試験(測定)種目と試験(測定)基準等を定めたものである。

(1) 品質管理基準適用の留意点

- ① この品質管理基準に記載のない事項については、日本ダクタイル鉄管協会発行の接合要領書、水道配水用ポリエチレンパイプシステム協会発行の施工マニュアル等によるものとする。
- ② 道路復旧等の品質管理基準は、各道路管理者の定める基準によらなければならない。
- ③ 受注者は、試験(測定)種目及び試験(測定)基準等について、工事着手前に品質管理計画を作成しなければならない。

(2) 各種目別の品質規格

受注者は、試験(測定)基準により実測し、品質管理表等を作成するものとする。

① 品質管理基準表（ポリエチレン管及び融着継手）

ア 最小曲げ半径

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準		備考															
			試験(測定)の基準	品質規格																
配管	曲げ配管	曲げ半径	配水用ポリエチレン管においては長さ1mの角材やスケールを用いて最大隙間を計測	1. ポリエチレン1種2層管の最小曲げ半径 (単位: cm)	最小曲げ半径以下に曲げて配管する場合は、エルボ等を使用する。															
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>最小曲げ半径</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ13</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>φ20</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>φ25</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>φ30</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>φ40</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>φ50</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table>		呼び径 (mm)	最小曲げ半径	φ13	45	φ20	55	φ25	70	φ30	85	φ40	100	φ50	120	
呼び径 (mm)	最小曲げ半径																			
φ13	45																			
φ20	55																			
φ25	70																			
φ30	85																			
φ40	100																			
φ50	120																			
				2. 配水用ポリエチレン管の最小曲げ半径																
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>最小曲げ半径 (cm)</th> <th>1m 区間における最大隙間 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ50</td> <td>500</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>φ75</td> <td>700</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>φ100</td> <td>950</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>φ150</td> <td>1350</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径 (mm)	最小曲げ半径 (cm)	1m 区間における最大隙間 (mm)	φ50	500	25	φ75	700	18	φ100	950	13	φ150	1350	9	
呼び径 (mm)	最小曲げ半径 (cm)	1m 区間における最大隙間 (mm)																		
φ50	500	25																		
φ75	700	18																		
φ100	950	13																		
φ150	1350	9																		

イ 切管長さ

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考		
			試験(測定)の基準	品質規格				
配管	管の切断	切管長さ	切管毎	【EF 接合の場合】 配水用ポリエチレン管(直管)の最小切管長さ				
				呼び径(mm)	最小切管長さ(mm)	挿入代(標線差込長さ)(mm)	余裕代(mm)	クランプ幅(mm)
				φ50	183	48~54	20	35
				φ75	205	62~65	20	35
				φ100	260	77~80	30	40
				φ150	300	95~100	30	40
				配水用ポリエチレン管(EF受口付直管)の最小切管長さ				
				呼び径(mm)	最小切管長さ(mm)	挿入代(標線差込長さ)(mm)	余裕代(mm)	クランプ幅(mm)
				φ50	260	48~54	20	35
				φ75	273	62~65	20	35
				φ100	316	77~80	30	40
				φ150	360	95~100	30	40
				【メカニカル継手の場合】 配水用ポリエチレン管の最小切管長さ				
				呼び径(mm)	最小切管長さ(mm)	インナーコア残長(mm)	インナーコア差し込み長さ(mm)	
				φ50	320	10	110	
φ75	350	15	115					
φ100	350	20	120					
φ150	350	25	125					

ウ 冷却時間

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準				備考	
			試験(測定)の基準	品質規格				
配管	融着	冷却時間	接合部毎	EFソケットの接合				
				呼び径(mm)	φ50	φ75	φ100	φ150
				冷却時間(分)	5	10		

エ 挿入量

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考
			試験(測定)の基準	品質規格		
配管	接合	挿入量	接合部毎	メカニカル接合		
				呼び径(mm)	L1(標準挿入量)(mm)	L2(最小挿入量)(mm)
				50	115	90
				75	120	90
				100	125	100
				150	130	110
※トルク管理については②品質管理基準表(ダクタイル鋳鉄管及びメカニカル継手)ア ボルトの締付けトルクを参照						

オ 水圧試験（配水管に限る）

工種	種別	試験 (測定) 種目	管 理 基 準		備考								
			試験 (測定) の基準	品質規格									
配管	試験	水圧試験	施工区間毎 （施工延長が 短い等によ り、監督員が接 合状況を視認 している範囲 を除く）	① 最後の融着継手接合終了後、下表記載の時間が経過するまで放置する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>放置時間 (分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ50～75</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>φ100</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>φ150</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径 (mm)	放置時間 (分)	φ50～75	20	φ100	30	φ150	45	試験結果を報告 ソフトシール弁または栓・帽で締め切られた場合 ダクタイル鋳鉄管が混在する区間においても適用する 水圧試験前に水圧試験を実施する範囲の日報、EF接合チェックシート、融着継手記録表（トレーサビリティ）を監督員に提出すること。
				呼び径 (mm)	放置時間 (分)								
φ50～75	20												
φ100	30												
φ150	45												
② ①放置後、0.75MPa まで加圧し、5 分間放置した後に 0.75MPa まで再加圧する。 ③ ②後 0.50MPa 以下まで減圧し、1 時間放置する。 ④ ③後 0.40MPa 以上を確認する。 ※②から自記録圧力計を設置													
配管	試験	水圧試験	不断水工法における割 T 字管の設置後	0.75MPa 以上の水圧を 3 分間以上持続									

② 品質管理基準表（ダクタイル鋳鉄管及びメカニカル継手）


7 ボルトの締付けトルク

工種	種別	試験(測定)種目	管理基準			備考																				
			試験(測定)の基準	品質規格																						
配管	管の接合	ボルトの締付けトルク	継手箇所毎	1. K形、NS形、SⅡ形、S形、KF形、異種間継手（※メーカーが独自に仕様を定める場合はそれに則ること）			チェックシートを作成し提出する。																			
				呼び径 (mm)	トルク(N・m)	ボルトの呼び																				
				φ75	60	M16																				
				φ100～600	100	M20																				
				φ700～800	140	M24																				
				φ900～1,350	200	M30																				
				2. GX形継手				<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>ボルトの呼び</th> <th>ボルト1セットの数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ75</td> <td>M16</td> <td>2(4)</td> </tr> <tr> <td>φ100</td> <td>M20</td> <td>2(4)</td> </tr> <tr> <td>φ150、200</td> <td>M20</td> <td>3(6)</td> </tr> <tr> <td>φ250、300</td> <td>M20</td> <td>4(8)</td> </tr> <tr> <td>φ400</td> <td>M20</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径 (mm)	ボルトの呼び	ボルト1セットの数	φ75	M16	2(4)	φ100	M20	2(4)	φ150、200	M20	3(6)	φ250、300	M20	4(8)	φ400	M20	6
				呼び径 (mm)	ボルトの呼び	ボルト1セットの数																				
				φ75	M16	2(4)																				
				φ100	M20	2(4)																				
				φ150、200	M20	3(6)																				
				φ250、300	M20	4(8)																				
φ400	M20	6																								
呼び径 (mm)	ボルトの呼び	ボルト1セットの数																								
φ75	M16	2(4)																								
φ100	M20	2(4)																								
φ150、200	M20	3(6)																								
φ250、300	M20	4(8)																								
φ400	M20	6																								
<p>容易に緩まないよう均等に締め付ける。（T頭ボルト・ナットの締付けは、メタルタッチでの確認となる。）</p> <p>（ ）内のボルト1セットの数は、G-Linkに使用する場合を示す。P-Link・G-Link 使用の場合、押しボルトのトルクは100N・m</p>			<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>トルク(N・m)</th> <th>ボルトの呼び</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ700～1,350</td> <td>120</td> <td>M22</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径 (mm)	トルク(N・m)	ボルトの呼び	φ700～1,350	120	M22																	
呼び径 (mm)	トルク(N・m)	ボルトの呼び																								
φ700～1,350	120	M22																								
3. U、UF形継手																										
呼び径 (mm)	トルク(N・m)	ボルトの呼び																								
φ700～1,350	120	M22																								
4. フランジ継手 (大平面座形 RF形-RF形)																										
呼び径 (mm)	トルク(N・m)	ボルトの呼び																								
φ75～200	60	M16																								
φ250・300	90	M20																								
φ350・400	120	M22																								
φ450～600	180	M24																								
φ700～1,200	330	M30																								
φ1,350	500	M36																								
<p>(溝形 RF形-GF形 メタルタッチの場合) φ75～1500 まで60N・m以上</p> <p>(溝形 RF形-GF形 メタルタッチでない場合) 容易に緩まないよう均等に締め付ける。</p>																										
5. 離脱防止金具（特殊押輪）																										
押しボルトの締付けトルクは、各製品の規定のとおりとする。																										
6. メカニカル継手（配水用ポリエチレン管×配水用ポリエチレン管、配水用ポリエチレン管×ダクタイル鋳鉄管、配水用ポリエチレン管×ビニル管）																										
容易に緩まないよう均等に締め付ける。（T頭ボルト・ナットの締付けは、メタルタッチでの確認となる。）																										

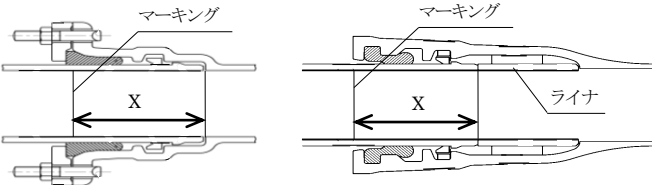
イ 胴付間隔

設置基準は、標準胴付間隔（継ぎ輪の場合は、両挿し口端の標準間隔）とし、規格値は、許容胴付間隔以下とする。

工種	種別	試験(測定)種目	管理基準		備考																																																																																																																											
			試験(測定)の基準	品質規格																																																																																																																												
配管	管の接合	胴付間隔	継手箇所毎	1. K形継手	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>標準胴付間隔(mm)</th> <th>許容胴付間隔(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ75~250</td> <td>5</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>φ300~900</td> <td>5</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>φ1000~1,350</td> <td>5</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び径(mm)</th> <th colspan="2">受口端面~2本目の白線までの間隔(A)</th> </tr> <tr> <th>標準値 (mm)</th> <th>許容値 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ75~250</td> <td>80</td> <td>≤95</td> </tr> <tr> <td>φ300~600</td> <td>80</td> <td>≤107</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. NS形継手 (直管受口)</p> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>L1 (mm)</th> <th>Y(mm)</th> <th>B(mm)</th> <th>B-Y(mm)</th> <th>a (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ75</td> <td>165</td> <td>45</td> <td>72</td> <td>27</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>φ100</td> <td>170</td> <td>45</td> <td>72</td> <td>27</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>φ150~250</td> <td>195</td> <td>60</td> <td>101</td> <td>41</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>φ300</td> <td>230</td> <td>69</td> <td>122</td> <td>53</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>φ350</td> <td>240</td> <td>70</td> <td>124</td> <td>54</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>φ400</td> <td>240</td> <td>71</td> <td>124</td> <td>53</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>φ450</td> <td>245</td> <td>73</td> <td>127</td> <td>54</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table> <p>Y : 標準胴付間隔 L1 : 管端~1本目の白線までの間隔 B : ライナ幅 a : 受口端面~2本目の白線までの間隔 (継ぎ輪)</p> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>L' (mm)</th> <th>y1(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ75</td> <td>80</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>φ100</td> <td>85</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>φ150~250</td> <td>100</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>φ300</td> <td>150</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>φ350</td> <td>160</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>φ400</td> <td>160</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>φ450</td> <td>165</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table> <p>L' : 受口端面~2本目の白線までの間隔 y1 : 両挿し口端の標準間隔 (挿し口挿入量)</p> <table border="1" style="margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>X1 (mm)</th> <th>X2 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ75</td> <td>154</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>φ100</td> <td>164</td> <td>145</td> </tr> <tr> <td>φ150</td> <td>170</td> <td>154</td> </tr> <tr> <td>φ200~250</td> <td>178</td> <td>154</td> </tr> <tr> <td>φ300</td> <td>141</td> <td>178</td> </tr> <tr> <td>φ350</td> <td>141</td> <td>186</td> </tr> <tr> <td>φ400</td> <td>143</td> <td>189</td> </tr> <tr> <td>φ450</td> <td>143</td> <td>189</td> </tr> </tbody> </table> <p>X1 : 異形管受口への挿し口挿入量 X2 : 直管受口 (ライナ装着時) への挿し口挿入量</p> </div>	呼び径(mm)	標準胴付間隔(mm)	許容胴付間隔(mm)	φ75~250	5	20	φ300~900	5	32	φ1000~1,350	5	36	呼び径(mm)	受口端面~2本目の白線までの間隔(A)		標準値 (mm)	許容値 (mm)	φ75~250	80	≤95	φ300~600	80	≤107	呼び径(mm)	L1 (mm)	Y(mm)	B(mm)	B-Y(mm)	a (mm)	φ75	165	45	72	27	80	φ100	170	45	72	27	80	φ150~250	195	60	101	41	80	φ300	230	69	122	53	80	φ350	240	70	124	54	80	φ400	240	71	124	53	80	φ450	245	73	127	54	80	呼び径(mm)	L' (mm)	y1(mm)	φ75	80	220	φ100	85	220	φ150~250	100	250	φ300	150	300	φ350	160	300	φ400	160	300	φ450	165	300	呼び径(mm)	X1 (mm)	X2 (mm)	φ75	154	140	φ100	164	145	φ150	170	154	φ200~250	178	154	φ300	141	178	φ350	141	186	φ400	143	189	φ450	143	189	チェックシートを作成し提出する。
				呼び径(mm)		標準胴付間隔(mm)	許容胴付間隔(mm)																																																																																																																									
				φ75~250		5	20																																																																																																																									
				φ300~900		5	32																																																																																																																									
				φ1000~1,350		5	36																																																																																																																									
				呼び径(mm)		受口端面~2本目の白線までの間隔(A)																																																																																																																										
						標準値 (mm)	許容値 (mm)																																																																																																																									
				φ75~250		80	≤95																																																																																																																									
				φ300~600		80	≤107																																																																																																																									
				呼び径(mm)		L1 (mm)	Y(mm)	B(mm)	B-Y(mm)	a (mm)																																																																																																																						
				φ75		165	45	72	27	80																																																																																																																						
				φ100		170	45	72	27	80																																																																																																																						
φ150~250	195	60	101	41	80																																																																																																																											
φ300	230	69	122	53	80																																																																																																																											
φ350	240	70	124	54	80																																																																																																																											
φ400	240	71	124	53	80																																																																																																																											
φ450	245	73	127	54	80																																																																																																																											
呼び径(mm)	L' (mm)	y1(mm)																																																																																																																														
φ75	80	220																																																																																																																														
φ100	85	220																																																																																																																														
φ150~250	100	250																																																																																																																														
φ300	150	300																																																																																																																														
φ350	160	300																																																																																																																														
φ400	160	300																																																																																																																														
φ450	165	300																																																																																																																														
呼び径(mm)	X1 (mm)	X2 (mm)																																																																																																																														
φ75	154	140																																																																																																																														
φ100	164	145																																																																																																																														
φ150	170	154																																																																																																																														
φ200~250	178	154																																																																																																																														
φ300	141	178																																																																																																																														
φ350	141	186																																																																																																																														
φ400	143	189																																																																																																																														
φ450	143	189																																																																																																																														

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準		備考																																																																																																																																	
			試験(測定)の基準	品質規格																																																																																																																																		
配管	管の接合	のみ込み量の実測 X (mm)	継手箇所毎	<p>ライナ入りの直管、異形管及び巾着の接合箇所では、受口端面から受口奥部までののみ込み量 (X) を測定し、測定値を挿し口外面全周 (又は円周4か所) に挿し口の挿入量として白線で明示する。</p> <p>ただし、ライナ入りの直管についてののみ込み量 (X) は、受口端面からライナまでとし、測定は、4.5 mmの隙間ゲージがライナと受口奥部との間に全周にわたって入らないことを確認した後とする。</p>  <p>3. GX形継手 (直管受口)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>L1(mm)</th> <th>Y(mm)</th> <th>B(mm)</th> <th>B-Y(mm)</th> <th>L' (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>φ 75</td><td>160</td><td>45</td><td>74</td><td>29</td><td>80</td></tr> <tr><td>φ 100</td><td>165</td><td>45</td><td>74</td><td>29</td><td>80</td></tr> <tr><td>φ 150</td><td>185</td><td>60</td><td>99</td><td>39</td><td>80</td></tr> <tr><td>φ 200~250</td><td>195</td><td>60</td><td>99</td><td>39</td><td>80</td></tr> <tr><td>φ 300</td><td>226</td><td>72</td><td>126</td><td>54</td><td>80</td></tr> <tr><td>φ 400</td><td>240</td><td>75</td><td>130</td><td>55</td><td>80</td></tr> </tbody> </table> <p>Y : 標準同付間隔 B : ライナ幅 L1 : 管端~1本目の白線までの間隔 L' : 受口端面~2本目の白線までの間隔 (継ぎ輪)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>L' (mm)</th> <th>y1(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>φ 75</td><td>90</td><td>190</td></tr> <tr><td>φ 100</td><td>95</td><td>200</td></tr> <tr><td>φ 150</td><td>110</td><td>240</td></tr> <tr><td>φ 200~250</td><td>120</td><td>250</td></tr> <tr><td>φ 300</td><td>135</td><td>300</td></tr> <tr><td>φ 400</td><td>150</td><td>300</td></tr> </tbody> </table> <p>L' : 受口端面~2本目の白線までの間隔 y1 : 両挿し口端の標準間隔 (挿し口挿入量)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>X1 (mm)</th> <th>X2 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>φ 75</td><td>136.5</td><td>130.5</td></tr> <tr><td>φ 100</td><td>137.5</td><td>136</td></tr> <tr><td>φ 150</td><td>142</td><td>147</td></tr> <tr><td>φ 200</td><td>144</td><td>156</td></tr> <tr><td>φ 250</td><td>145</td><td>157</td></tr> <tr><td>φ 300</td><td>150</td><td>172</td></tr> <tr><td>φ 400</td><td>152</td><td>186</td></tr> </tbody> </table> <p>X1 : 異形管受口への挿し口挿入量 X2 : 直管受口 (ライナ装着時) への挿し口挿入量 (P-Link)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>L1(mm)</th> <th>Y2(mm)</th> <th>X(mm)</th> <th>B(mm)</th> <th>B-Y2(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>φ 75</td><td>143</td><td>62</td><td>115</td><td>74</td><td>12</td></tr> <tr><td>φ 100</td><td>145</td><td>65</td><td>123</td><td>74</td><td>9</td></tr> <tr><td>φ 150</td><td>163</td><td>83</td><td>127</td><td>99</td><td>16</td></tr> <tr><td>φ 200</td><td>173</td><td>82</td><td>140</td><td>99</td><td>17</td></tr> <tr><td>φ 250</td><td>173</td><td>83</td><td>141</td><td>99</td><td>16</td></tr> <tr><td>φ 300</td><td>206</td><td>92</td><td>152</td><td>126</td><td>34</td></tr> </tbody> </table> <p>Y2 : P-Link 標準同付間隔 L1 : 管端~黄線までの間隔 X : P-Link 受口への挿し口挿入量 B : ライナ幅</p>	呼び径(mm)	L1(mm)	Y(mm)	B(mm)	B-Y(mm)	L' (mm)	φ 75	160	45	74	29	80	φ 100	165	45	74	29	80	φ 150	185	60	99	39	80	φ 200~250	195	60	99	39	80	φ 300	226	72	126	54	80	φ 400	240	75	130	55	80	呼び径(mm)	L' (mm)	y1(mm)	φ 75	90	190	φ 100	95	200	φ 150	110	240	φ 200~250	120	250	φ 300	135	300	φ 400	150	300	呼び径(mm)	X1 (mm)	X2 (mm)	φ 75	136.5	130.5	φ 100	137.5	136	φ 150	142	147	φ 200	144	156	φ 250	145	157	φ 300	150	172	φ 400	152	186	呼び径(mm)	L1(mm)	Y2(mm)	X(mm)	B(mm)	B-Y2(mm)	φ 75	143	62	115	74	12	φ 100	145	65	123	74	9	φ 150	163	83	127	99	16	φ 200	173	82	140	99	17	φ 250	173	83	141	99	16	φ 300	206	92	152	126	34	継手箇所毎
			呼び径(mm)	L1(mm)	Y(mm)	B(mm)	B-Y(mm)	L' (mm)																																																																																																																														
φ 75	160	45	74	29	80																																																																																																																																	
φ 100	165	45	74	29	80																																																																																																																																	
φ 150	185	60	99	39	80																																																																																																																																	
φ 200~250	195	60	99	39	80																																																																																																																																	
φ 300	226	72	126	54	80																																																																																																																																	
φ 400	240	75	130	55	80																																																																																																																																	
呼び径(mm)	L' (mm)	y1(mm)																																																																																																																																				
φ 75	90	190																																																																																																																																				
φ 100	95	200																																																																																																																																				
φ 150	110	240																																																																																																																																				
φ 200~250	120	250																																																																																																																																				
φ 300	135	300																																																																																																																																				
φ 400	150	300																																																																																																																																				
呼び径(mm)	X1 (mm)	X2 (mm)																																																																																																																																				
φ 75	136.5	130.5																																																																																																																																				
φ 100	137.5	136																																																																																																																																				
φ 150	142	147																																																																																																																																				
φ 200	144	156																																																																																																																																				
φ 250	145	157																																																																																																																																				
φ 300	150	172																																																																																																																																				
φ 400	152	186																																																																																																																																				
呼び径(mm)	L1(mm)	Y2(mm)	X(mm)	B(mm)	B-Y2(mm)																																																																																																																																	
φ 75	143	62	115	74	12																																																																																																																																	
φ 100	145	65	123	74	9																																																																																																																																	
φ 150	163	83	127	99	16																																																																																																																																	
φ 200	173	82	140	99	17																																																																																																																																	
φ 250	173	83	141	99	16																																																																																																																																	
φ 300	206	92	152	126	34																																																																																																																																	
胴付間隔																																																																																																																																						

チエックシートを作成し提出する。

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準		備考																																																											
			試験(測定)の基準	品質規格																																																												
配管	管の接合	のみ込み量の実測 X (mm)	継手箇所毎	<p>P-Link、ライナ入りの直管、異形管及び帽の接合箇所では、受口端面から受口奥部までののみ込み量 (X) を測定し、測定値を挿し口外面全周 (又は円周4か所) に挿し口の挿入量として白線で明示する。</p> <p>ただし、ライナ入りの直管についてののみ込み量 (X) は、受口端面からライナまでとし、ライナが受口奥部に当たっていることを手で触って確認した後とする。</p> 	チェックシートを作成し提出する。																																																											
		胴付間隔	継手箇所毎	<p>4. S II形継手 (直管受口)</p> <table border="1" data-bbox="638 801 1284 936"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>L 1 (mm)</th> <th>Y (mm)</th> <th>B (mm)</th> <th>B-Y (mm)</th> <th>L' (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ 75~100</td> <td>135</td> <td>45</td> <td>80</td> <td>35</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>φ 150~250</td> <td>150</td> <td>60</td> <td>110</td> <td>50</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>φ 300~450</td> <td>175</td> <td>75</td> <td>140</td> <td>65</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table> <p>Y : 標準胴付間隔 L 1 : 管端~1本目の白線までの間隔 B : ライナ幅 L' : 受口端面~2本目の白線までの間隔</p> <p>(継ぎ輪)</p> <table border="1" data-bbox="683 1120 1241 1249"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>y 1 (mm)</th> <th>y 2 (mm)</th> <th>L' (mm)</th> <th>L 2 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ 75~100</td> <td>180</td> <td>400</td> <td>80</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>φ 150~250</td> <td>200</td> <td>400</td> <td>80</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>φ 300~450</td> <td>200</td> <td>550</td> <td>80</td> <td>375</td> </tr> </tbody> </table> <p>y 1 : 継ぎ輪の両挿し口端の標準間隔 y 2 : 長尺継ぎ輪の両挿し口端の標準間隔 L' : 継ぎ輪の受口端面~2本目の白線までの間隔 L 2 : 長尺継ぎ輪の挿し口端面~受口端面までの間隔 (挿し口挿入量)</p> <p>5. S形継手</p> <table border="1" data-bbox="619 1496 1300 1630"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>標準胴付間隔 (mm)</th> <th>管端~1本目の白線までの寸法 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ 500~900</td> <td>75</td> <td>φ 500・600 のみ 215</td> </tr> <tr> <td>φ 1000~1350</td> <td>80</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>6. U・US形継手 (φ 700~1350)</p> <table border="1" data-bbox="670 1713 1252 1814"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>標準胴付間隔(mm)</th> <th>許容胴付間隔 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ 700~900</td> <td>105</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>φ 1000~1350</td> <td>105</td> <td>138</td> </tr> </tbody> </table> <p>*U・US・UF形継手の締付け完了時の押輪と受口底部の間隔 57~60 mm</p>		呼び径(mm)	L 1 (mm)	Y (mm)	B (mm)	B-Y (mm)	L' (mm)	φ 75~100	135	45	80	35	80	φ 150~250	150	60	110	50	80	φ 300~450	175	75	140	65	80	呼び径(mm)	y 1 (mm)	y 2 (mm)	L' (mm)	L 2 (mm)	φ 75~100	180	400	80	300	φ 150~250	200	400	80	300	φ 300~450	200	550	80	375	呼び径 (mm)	標準胴付間隔 (mm)	管端~1本目の白線までの寸法 (mm)	φ 500~900	75	φ 500・600 のみ 215	φ 1000~1350	80	—	呼び径 (mm)	標準胴付間隔(mm)	許容胴付間隔 (mm)	φ 700~900	105	137
呼び径(mm)	L 1 (mm)	Y (mm)	B (mm)	B-Y (mm)	L' (mm)																																																											
φ 75~100	135	45	80	35	80																																																											
φ 150~250	150	60	110	50	80																																																											
φ 300~450	175	75	140	65	80																																																											
呼び径(mm)	y 1 (mm)	y 2 (mm)	L' (mm)	L 2 (mm)																																																												
φ 75~100	180	400	80	300																																																												
φ 150~250	200	400	80	300																																																												
φ 300~450	200	550	80	375																																																												
呼び径 (mm)	標準胴付間隔 (mm)	管端~1本目の白線までの寸法 (mm)																																																														
φ 500~900	75	φ 500・600 のみ 215																																																														
φ 1000~1350	80	—																																																														
呼び径 (mm)	標準胴付間隔(mm)	許容胴付間隔 (mm)																																																														
φ 700~900	105	137																																																														
φ 1000~1350	105	138																																																														

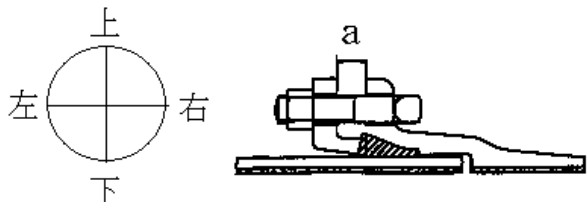
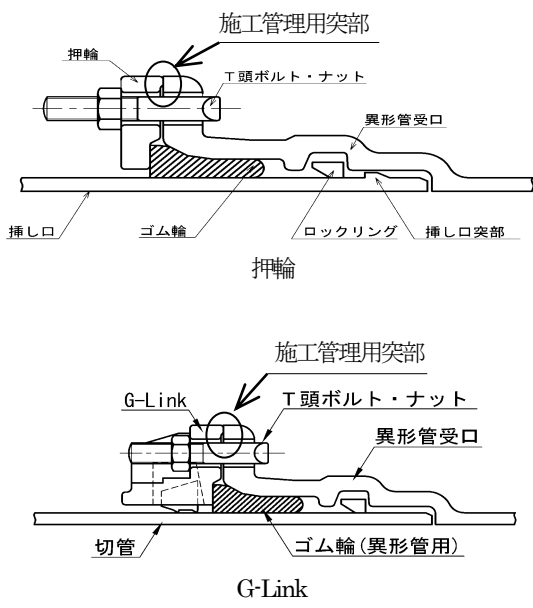
ウ 施工時許容曲げ角度と許容偏位

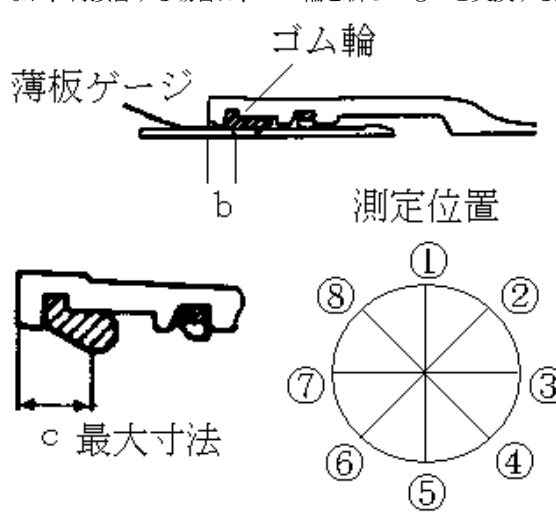
設置基準は、受口端面から白線までの間隔を上下左右ともに均一にする。

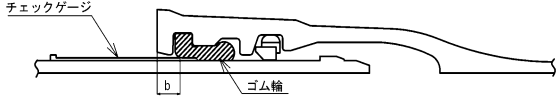
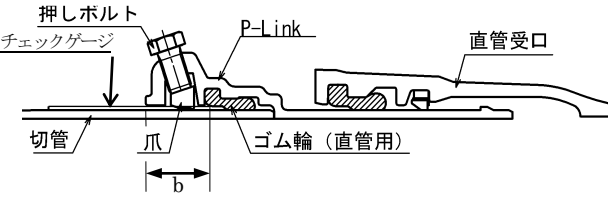
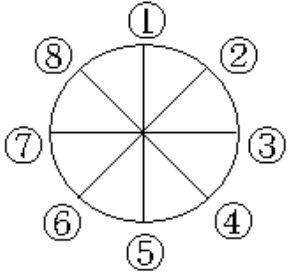
規格値は、受口端面から白線までの上下及び左右の間隔差（X）が下表の値以下とする。

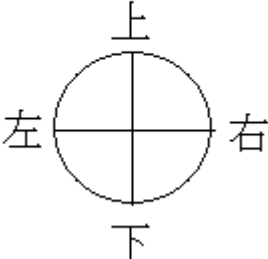
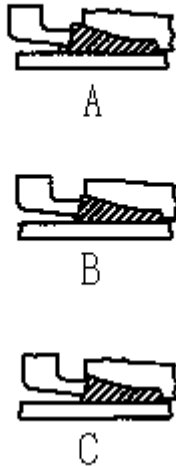
工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準					備考	
			試験(測定)の基準	品質規格					
配管	管の接合	施工時許容曲げ角度 許容偏位 δ (cm) 間隔差 X (mm)	継手箇所毎	呼び径(mm)	管長 (m)	施工時許容曲げ角度	偏位 δ (cm)	間隔差 X (mm)	チェックシートで確認する。
				K形					
				φ75	4	2° 30'	17	4	
				φ100	4	2° 30'	17	5	
				φ150	5	2° 30'	22	7	
				φ200	5	2° 30'	22	10	
				φ250	5	2° 00'	17	10	
				φ300	6	1° 40'	17	9	
				φ350	6	2° 25'	25	16	
				φ400	6	2° 05'	22	16	
				φ450	6	1° 55'	20	16	
				φ500	6	1° 40'	17	15	
				φ600	6	1° 25'	15	16	
				φ700	6	1° 15'	13	16	
				φ800	6	1° 05'	11	16	
				φ900	6	1° 00'	10	16	
				φ1000	6	0° 55'	10	17	
				φ1100	6	0° 50'	9	17	
				φ1200	6	0° 45'	8	16	
				φ1350	6	0° 40'	7	16	
				GX形					
				φ75	4	2° 00'	14	3	
				φ100	4	2° 00'	14	4	
				φ150	5	2° 00'	17	6	
				φ200	5	2° 00'	17	8	
				φ250	5	2° 00'	17	10	
				φ300	6	2° 00'	21	11	
				φ400	6	2° 00'	21	15	
				NS形・SII形					
				φ350	6	1° 30'	16	10	
				φ400	6	1° 30'	16	11	
				φ450	6	1° 30'	16	13	
				NS形・S形					
				φ500	6	1° 40'	17	15	
				φ600	6	1° 25'	15	16	
				φ700	6	1° 15'	13	16	
				φ800	6	1° 05'	11	16	
				φ900	6	1° 00'	10	16	
				φ1000	6	0° 55'	10	17	
				S形					
φ1100	6	0° 50'	9	17					
φ1200	6	0° 45'	8	16					
φ1350	6	0° 45'	8	18					
δ : 管一本当たりに許容される偏位 X : 受口端面から白線までの間隔の差 (上下または左右)									

I 押輪とゴム輪の設置


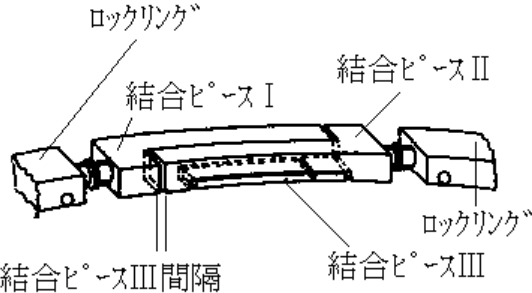
工種	種別	試験(測定)種目	管理基準		備考
			試験(測定)の基準	品質規格	
配管	管の接合	押輪と受口端面との間隔 (a)	適用範囲の継手箇所毎	<p>(適用範囲)</p> <p>① K・SⅡ・S・KF形継手 全接合箇所</p> <p>② NS形継手 継ぎ輪、帽及び呼び径φ300mm以上の異形管の接合箇所</p> <p>(設置基準と規格値)</p> <p>設置基準は、押輪と受口端面との間隔を均一にする。 規格値は、上・下・左・右の4か所で測定した押輪と受口端面との間隔の最大値と最小値の差が5mm以下とする。</p> <p>測定位置</p>  <p>③ GX形継手 異形管の押輪及びG-Linkの接合箇所</p> <p>(設置基準)</p> <p>押輪およびG-Linkの施工管理用突部と受口端面との隙間がないこと。 押輪およびG-Linkの施工管理用突部と受口端面に隙間ゲージ(厚さ0.5mm)をあて、隙間がないことを確認する。</p> 	チェックシートを作成し提出する。

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準		備考
			試験(測定)の基準	品質規格	
配管	管の接合	受口端面からゴム輪最頂部までの最大寸法(c) 受口面とゴム輪との間隔(b)	適用範囲の継手箇所毎	<p>(適用範囲)</p> <p>① NS形継手の接合箇所(ただし、継ぎ輪、帽及び呼び径φ300mm以上の異形管を除く。)</p> <p>(設置基準)</p> <p>ゴム輪を受口内面に設置し、受口端面からゴム輪最頂部までの最大寸法cを測定する。</p> <p>挿入後、全周にわたって受口と挿し口のすき間に薄板ゲージを差し込み、その入り込み量bが最大寸法c以下であることを確認する。全周にわたりc以下であれば、そのうち円周8か所について入り込み量を測定する。</p> <p>最大寸法c以上の箇所がある場合は、継手を解体して再接合する。なお、再接合する場合は、ゴム輪を新しいものと交換する。</p>  <p>② GX形継手の接合箇所(ただし、異形管の押輪及びG-Linkの接合箇所を除く。)</p> <p>(設置基準)</p> <p>1. 直管受口</p> <p>ゴム輪を受口内面に設置し、管挿入後、全周にわたって受口と挿し口の隙間にチェックゲージの厚さ2mm側を差し込み、その入り込み量(b)が次表に示す合格範囲内であることを確認する。全周にわたり合格範囲内であれば、そのうち円周8か所について入り込み量を測定する。</p> <p>厚さ2mm側で測定したチェックゲージの入り込み量(b)が合格範囲外であった場合は、厚さ4mm側を差し込み、再度入り込み量(b)寸法を測定する。(2mmのチェックゲージで合格範囲外でも、4mmのチェックゲージで合格範囲内であればよい。)</p> <p>厚さ2mm、4mmのいずれのチェックゲージを用いても入り込み量(b)が、次表に示す合格範囲外の場合は、継手を解体して再接合する。</p> <p>なお、曲げ接合した場合の屈曲の内側は受口と挿し口の隙間が小さく、チェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合があるので、その場合はチェックできなかったことを記録する。</p> <p>また、再接合する場合は、ゴム輪を新しいものと交換する。</p>	チェックシートを作成し提出する。

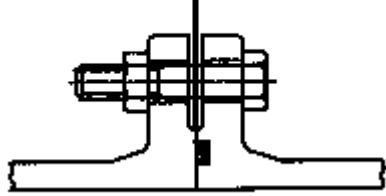
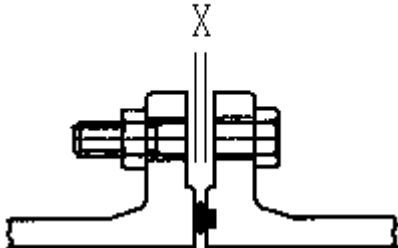
工種	種別	試験(測定)種目	管理基準		備考																								
			試験(測定)の基準	品質規格																									
配管	管の接合	受口面とゴム輪との間隔 (b)	適用範囲の継手箇所毎	<p>2. P-Link 受口</p> <p>押しボルトを締め付ける前に厚さ0.5mmのチェックゲージを用いて、直管受口同様ゴム輪の位置確認を行い、測定値が次表に示す合格範囲内であることを確認する。全周にわたり合格範囲内であれば、そのうち円周8か所について入り込み量を測定する。</p> <p>厚さ0.5mmで測定したチェックゲージの入り込み量 (b) が合格範囲外であった場合は、厚さ2mmのチェックゲージを差し込み、再度入り込み量 (b) 寸法を測定する。(0.5mmのチェックゲージで合格範囲外でも、2mmのチェックゲージで合格範囲内であれば良い。)</p> <p>厚さ0.5mm、2mmのいずれのチェックゲージを用いても入り込み量 (b) が、次表に示す合格範囲外の場合は、継手を解体して再接合する。</p> <p>なお、再接合する場合は、ゴム輪を新しいものと交換する。</p> <p>チェックゲージの入り込み量 (b) の合格範囲</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>直管受口 (2mm、4mm共通)</th> <th>P-Link 受口 (0.5mm、2mm共通)</th> </tr> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>合格範囲(mm)</th> <th>合格範囲(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ75</td> <td>8~18</td> <td>54~63</td> </tr> <tr> <td>φ100</td> <td>8~18</td> <td>57~66</td> </tr> <tr> <td>φ150</td> <td>11~21</td> <td>57~66</td> </tr> <tr> <td>φ200</td> <td>11~21</td> <td>63~72</td> </tr> <tr> <td>φ250</td> <td>11~21</td> <td>63~72</td> </tr> <tr> <td>φ300</td> <td>14~24</td> <td>70~80</td> </tr> </tbody> </table> <p>直管受口</p>  <p>P-Link 受口</p>  <p>b : チェックゲージの入り込み量</p> <p>測定位置</p> 		直管受口 (2mm、4mm共通)	P-Link 受口 (0.5mm、2mm共通)	呼び径(mm)	合格範囲(mm)	合格範囲(mm)	φ75	8~18	54~63	φ100	8~18	57~66	φ150	11~21	57~66	φ200	11~21	63~72	φ250	11~21	63~72	φ300	14~24	70~80	チェックシートを作成し提出する。
	直管受口 (2mm、4mm共通)	P-Link 受口 (0.5mm、2mm共通)																											
呼び径(mm)	合格範囲(mm)	合格範囲(mm)																											
φ75	8~18	54~63																											
φ100	8~18	57~66																											
φ150	11~21	57~66																											
φ200	11~21	63~72																											
φ250	11~21	63~72																											
φ300	14~24	70~80																											

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準		備考
			試験(測定)の基準	品質規格	
配管	管の接合	ゴム輪の出入状況	適用範囲の継手箇所毎	<p>(適用範囲)</p> <p>① K・SⅡ・S・KF形継手 全接合箇所</p> <p>② NS形継手 呼び径φ300mm以上の異形管及び継ぎ輪の接合箇所</p> <p>(設置基準)</p> <p>同一円周上の上・下・左・右の4か所を測定し、同一円周上にA,CまたはA,B,Cが同時に存在しないように設置する。</p> <p style="text-align: center;">測定位置</p>  <p style="text-align: center;">ゴム輪の出入り状態</p> 	チェックシートを作成し提出する。

オ ロックリングの設置

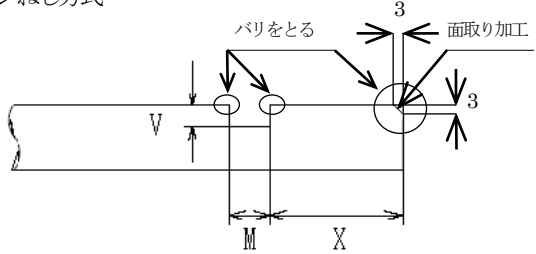
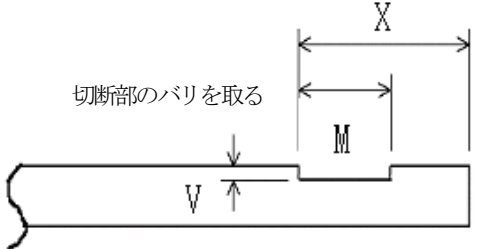
工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準		備考
			試験(測定)の基準	品質規格	
配管	管の接合	ロックリング分割部の間隔	適用範囲の継手箇所毎	<p>(適用範囲) SⅡ・KF形継手の全接合箇所</p> <p>(設置基準) SⅡ形継手は、g1とg2との差が1.5mm以下になるように設置する。 KF形継手は、$g1 \geq g2$になるように設置する。</p> <p>g1：事前確認時のロックリング分割部の間隔 g2：セット後のロックリング分割部の間隔</p> <p style="text-align: center;">g1及びg2</p> 	<p>チェックシートを作成し提出する。</p>
		ロックリングと挿し口外面のすき間	適用範囲の継手箇所毎	<p>(適用範囲) S形継手の接合箇所</p> <p>(設置基準) 同一円周上の上・下・左・右の4か所に1.0mm厚のすきまゲージを挿し込み、ロックリング内面と挿し口外面のすき間に入らないことを確認する。</p>	
		結合ピースⅢ間隔	適用範囲の継手箇所毎	<p>(適用範囲) S形継手の接合箇所</p> <p>(設置基準) 結合ピースⅢの円周方向間隔が1.5mm～2.0mmになるように設置する。</p> 	

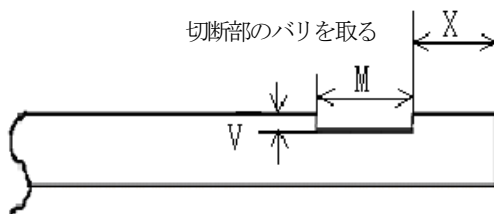
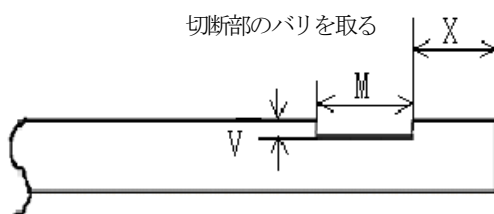
カ フランジ継手の接合状況

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準		備考									
			試験(測定)の基準	品質規格										
配管	管の接合	溝形フランジ継手の接合状況(RF-GF)	継手箇所毎	<p>(メタルタッチの場合)</p> <p>継手外側から同一円周上の上・下・左・右の4か所に0.9mm厚のすきまゲージを挿し込み、フランジ面間に入らないことを確認する。</p> <p style="text-align: center;">すきまゲージ</p>  <p>(メタルタッチでない場合)</p> <p>同一円周上における上・下・左・右4か所のフランジ面間に下表に示す上限のすきまゲージが継手外側から挿入できないこと、及び、下限のすきまゲージが挿入できることを確認する。</p> <p>フランジ面間の標準間隔 X</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>上限(mm)</th> <th>下限 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ 75~900</td> <td>4.5</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>φ 1000~1350</td> <td>6.0</td> <td>4.5</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">標準間隔</p> <p style="text-align: center;">X</p> 	呼び径 (mm)	上限(mm)	下限 (mm)	φ 75~900	4.5	3.5	φ 1000~1350	6.0	4.5	チェックシートを作成し提出する。
呼び径 (mm)	上限(mm)	下限 (mm)												
φ 75~900	4.5	3.5												
φ 1000~1350	6.0	4.5												

キ 挿し口加工寸法

工種	種別	試験(測定)種目	管理基準		備考																		
			試験(測定)の基準	品質規格																			
配管	管の接合	挿し口加工寸法	施工箇所毎	NS形 (φ75~450 mm) ①リベット方式																			
				<p>丸みをつける 切断部のバリをとる</p>																			
				呼び径φ250mm以下の場合 単位(mm)																			
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>Y</th> <th>Z</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>30.4</td> <td>9.5</td> <td>3.2</td> <td>11.0</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>+2.0 ~ 0.0</td> <td>0.0 ~ -2.0</td> <td>+1.5 ~ -0.5</td> <td>+1.0 ~ 0.0</td> <td>0.0 ~ -0.5</td> </tr> </tbody> </table>			X	Y	Z	M	V	加工寸法	30.4	9.5	3.2	11.0	2.5	規格値	+2.0 ~ 0.0	0.0 ~ -2.0	+1.5 ~ -0.5	+1.0 ~ 0.0	0.0 ~ -0.5
						X	Y	Z	M	V													
				加工寸法		30.4	9.5	3.2	11.0	2.5													
				規格値		+2.0 ~ 0.0	0.0 ~ -2.0	+1.5 ~ -0.5	+1.0 ~ 0.0	0.0 ~ -0.5													
				*各呼び径とも寸法は同じ																			
				呼び径φ300~450mmの場合 単位(mm)																			
				<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>Y</th> <th>Z</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>35.4</td> <td>14.0</td> <td>3.2</td> <td>11.0</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>+2.0 ~ 0.0</td> <td>0.0 ~ -2.0</td> <td>+1.5 ~ -0.5</td> <td>+1.0 ~ 0.0</td> <td>0.0 ~ -0.5</td> </tr> </tbody> </table>			X	Y	Z	M	V	加工寸法	35.4	14.0	3.2	11.0	2.5	規格値	+2.0 ~ 0.0	0.0 ~ -2.0	+1.5 ~ -0.5	+1.0 ~ 0.0	0.0 ~ -0.5
						X	Y	Z	M	V													
				加工寸法		35.4	14.0	3.2	11.0	2.5													
規格値	+2.0 ~ 0.0	0.0 ~ -2.0	+1.5 ~ -0.5	+1.0 ~ 0.0	0.0 ~ -0.5																		
*各呼び径とも寸法は同じ																							
②タッピンねじ方式																							
<p>切断部のバリをとる 丸みをつける</p>																							
呼び径φ250mm以下の場合 単位(mm)																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>15.0</td> <td>4.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>+1.0~-2.0</td> <td>+1.0~0.0</td> <td>0.0~-0.5</td> </tr> </tbody> </table>		X	M	V	加工寸法	15.0	4.5	2.5	規格値	+1.0~-2.0	+1.0~0.0	0.0~-0.5											
	X	M	V																				
加工寸法	15.0	4.5	2.5																				
規格値	+1.0~-2.0	+1.0~0.0	0.0~-0.5																				
呼び径φ300~450mmの場合 単位(mm)																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>20.0</td> <td>4.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>+1.0~-2.0</td> <td>+1.0~0.0</td> <td>0.0~-0.5</td> </tr> </tbody> </table>		X	M	V	加工寸法	20.0	4.5	2.5	規格値	+1.0~-2.0	+1.0~0.0	0.0~-0.5											
	X	M	V																				
加工寸法	20.0	4.5	2.5																				
規格値	+1.0~-2.0	+1.0~0.0	0.0~-0.5																				
継ぎ輪の場合 (各呼び径とも寸法は同じ) 単位(mm)																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>50.0</td> <td>4.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>±10</td> <td>+1.0~0.0</td> <td>0.0~-0.5</td> </tr> </tbody> </table>		X	M	V	加工寸法	50.0	4.5	2.5	規格値	±10	+1.0~0.0	0.0~-0.5											
	X	M	V																				
加工寸法	50.0	4.5	2.5																				
規格値	±10	+1.0~0.0	0.0~-0.5																				
*チェックゲージを加工後の溝に入れて、挿し口全周にわたって浮かないことを確認する。 *チェックゲージが溝と挿し口端面の間に入らないことを確認する。(継ぎ輪の場合を除く) *呼び径φ250mm以下と呼び径φ300~450mmではX寸法が異なるため、使用するチェックゲージが異なる。																							

工種	種別	試験(測定)種目	管理基準		備考																								
			試験(測定)の基準	品質規格																									
配管	管の接合	挿し口加工寸法	施工箇所毎	GX形 タッピンねじ方式 																									
				<p>呼び径φ250mm以下の場合 単位(mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>24.5</td> <td>4.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>+1.0~-2.0</td> <td>+1.0~0.0</td> <td>0.0~-0.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>呼び径φ300、φ400の場合 単位(mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>20.0</td> <td>4.5</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>+1.0~-2.0</td> <td>+1.0~0.0</td> <td>0.0~-0.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>*チェックゲージを加工後の溝に入れて、挿し口全周にわたって浮かないことを確認する。 *チェックゲージが溝と挿し口端面の間に入らないことを確認する。</p>			X	M	V	加工寸法	24.5	4.5	2.5	規格値	+1.0~-2.0	+1.0~0.0	0.0~-0.5		X	M	V	加工寸法	20.0	4.5	2.5	規格値	+1.0~-2.0	+1.0~0.0	0.0~-0.5
	X	M	V																										
加工寸法	24.5	4.5	2.5																										
規格値	+1.0~-2.0	+1.0~0.0	0.0~-0.5																										
	X	M	V																										
加工寸法	20.0	4.5	2.5																										
規格値	+1.0~-2.0	+1.0~0.0	0.0~-0.5																										
				SII形 																									
				<p>呼び径φ75~200mmの場合 単位(mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>30.0</td> <td>16.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>+1.0~-1.0</td> <td>+1.0~0.0</td> <td>+0.5~0.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>呼び径φ250~450mmの場合 単位(mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工寸法</td> <td>35.0</td> <td>21.0</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>規格値</td> <td>+1.0~-1.0</td> <td>+1.0~0.0</td> <td>+0.5~0.0</td> </tr> </tbody> </table>		X	M	V	加工寸法	30.0	16.0	2.0	規格値	+1.0~-1.0	+1.0~0.0	+0.5~0.0		X	M	V	加工寸法	35.0	21.0	2.0	規格値	+1.0~-1.0	+1.0~0.0	+0.5~0.0	
	X	M	V																										
加工寸法	30.0	16.0	2.0																										
規格値	+1.0~-1.0	+1.0~0.0	+0.5~0.0																										
	X	M	V																										
加工寸法	35.0	21.0	2.0																										
規格値	+1.0~-1.0	+1.0~0.0	+0.5~0.0																										

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準		備考																																								
			試験(測定)の基準	品質規格																																									
配管	管の接合	挿し口加工寸法	施工箇所毎	S形、NS形 (φ500~1000mm)  加工寸法 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="4">単位 (mm)</th> </tr> <tr> <th>呼び径</th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ500~600</td> <td>40.0</td> <td>22.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>φ700~900</td> <td>55.0</td> <td>27.0</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>φ1000~1200</td> <td>50.0</td> <td>32.0</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>φ1350</td> <td>60.0</td> <td>32.0</td> <td>5.0</td> </tr> </tbody> </table> 規格値 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="4">単位 (mm)</th> </tr> <tr> <th>呼び径</th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ500~600</td> <td>+2.0~-2.0</td> <td>+1.5~-0.5</td> <td>+1.0~-0.5</td> </tr> <tr> <td>φ700~1350</td> <td>+4.0~-4.0</td> <td>+1.5~-0.5</td> <td>+1.0~-0.5</td> </tr> </tbody> </table>	単位 (mm)				呼び径	X	M	V	φ500~600	40.0	22.0	3.0	φ700~900	55.0	27.0	4.0	φ1000~1200	50.0	32.0	5.0	φ1350	60.0	32.0	5.0	単位 (mm)				呼び径	X	M	V	φ500~600	+2.0~-2.0	+1.5~-0.5	+1.0~-0.5	φ700~1350	+4.0~-4.0	+1.5~-0.5	+1.0~-0.5	
				単位 (mm)																																									
呼び径	X	M	V																																										
φ500~600	40.0	22.0	3.0																																										
φ700~900	55.0	27.0	4.0																																										
φ1000~1200	50.0	32.0	5.0																																										
φ1350	60.0	32.0	5.0																																										
単位 (mm)																																													
呼び径	X	M	V																																										
φ500~600	+2.0~-2.0	+1.5~-0.5	+1.0~-0.5																																										
φ700~1350	+4.0~-4.0	+1.5~-0.5	+1.0~-0.5																																										
				KF形  加工寸法 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="4">単位 (mm)</th> </tr> <tr> <th>呼び径</th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ300~450</td> <td>50.0</td> <td>17.0</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>φ500~600</td> <td>60.0</td> <td>22.0</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>φ700~900</td> <td>84.0</td> <td>27.0</td> <td>4.0</td> </tr> </tbody> </table> 規格値 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="4">単位 (mm)</th> </tr> <tr> <th>呼び径</th> <th>X</th> <th>M</th> <th>V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>φ300~600</td> <td>0.0~-5.0</td> <td>+1.5~-0.5</td> <td>+1.0~-0.5</td> </tr> <tr> <td>φ700~900</td> <td>0.0~-6.0</td> <td>+1.5~-0.5</td> <td>+1.0~-0.5</td> </tr> </tbody> </table>	単位 (mm)				呼び径	X	M	V	φ300~450	50.0	17.0	3.0	φ500~600	60.0	22.0	4.0	φ700~900	84.0	27.0	4.0	単位 (mm)				呼び径	X	M	V	φ300~600	0.0~-5.0	+1.5~-0.5	+1.0~-0.5	φ700~900	0.0~-6.0	+1.5~-0.5	+1.0~-0.5					
単位 (mm)																																													
呼び径	X	M	V																																										
φ300~450	50.0	17.0	3.0																																										
φ500~600	60.0	22.0	4.0																																										
φ700~900	84.0	27.0	4.0																																										
単位 (mm)																																													
呼び径	X	M	V																																										
φ300~600	0.0~-5.0	+1.5~-0.5	+1.0~-0.5																																										
φ700~900	0.0~-6.0	+1.5~-0.5	+1.0~-0.5																																										

ク 水圧試験

ダクタイル鋳鉄管の布設工事完了後、既設管との連絡工事前に行う

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考	
			試験(測定)の基準	品質規格			
配管	試験	水圧試験(φ800以下)	施工区間毎(施工延長が短い等により、監督員が接合状況を視認している範囲を除く)	自記録圧力計により試験水圧が一定時間以上保持されていることを確認する。試験時間は0.2MPaから0.7MPaまで加圧するのに要した水量を基に下表により求める。		試験結果を報告 配水用ポリエチレン管が混在する区間においては配水用ポリエチレン管の水圧試験を参照 ※やむを得ず自記録圧力計による水圧試験を実施できない場合はφ800(内径800mm以上に限る)において、監督員と協議のもとテストバンドによる水圧試験を可能とする。	
				試験水圧	管内注水量(リットル)		試験時間(分)
				0.70MPa以上	10未満		30
		0.75MPa以下	10~180	60			
			180~360	90			
			360~	120			
		水圧試験(φ900以上)	直管継手毎	テストバンドにより水密性を検査する。0.50MPaの試験水圧を負荷して5分経過後に0.40MPa以上保持されていること。		継手毎に報告	
		水圧試験	不断水工法における割T字管の設置後	0.75MPa以上の水圧を3分間以上持続			

③ 品質管理基準表(鋼管及び溶接継手)

7 溶接

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考
			試験方法	試験(測定)の基準	品質規格	
配管	鋼管の溶接	開先形状		溶接継手箇所ごと。	日本水道鋼管協会発行「WSP002 水道用塗覆装鋼管 現場施工基準」による。	チェックシートを作成し提出する。
		ルート間隔 目違い 余盛り		溶接継手箇所ごと 円周方向に天地左右の4点とする。		
		外観検査	目視	検査箇所は、設計図書及び監督員の指示したところとする。	下記について著しい欠陥がないこと。 1 余盛りの形状 2 溶接部及びその付近のわれ 3 アンダーカット 4 オーバーラップ 5 ピット 6 ビード形状スラグ 7 スパッタの付着 8 溶接ビードの不揃い	

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考
			試験方法	試験(測定)の基準	品質規格	
		放射線透過試験(x線)	JIS Z 3104 鋼溶接継手の放射線透過試験方法 撮影方法は内部線源撮影方法 小口径管等で人が入れない場合は二重壁片面撮影方法 JIS Z 3106 ステンレス鋼溶接継手の放射線透過試験方法	試験は、水道工事標準仕様書第Ⅱ編 4.3.7(検査)のとおり実施する。	水道工事標準仕様書第Ⅱ編 4.3.7(検査)による。 判定は、JIS Z 3104 及び JIS Z 3106 の3類以上とする。	WSP 008 試験成績及び透過写真を提出する。
		超音波探傷試験	JIS Z 3050 パイプライン溶接部の非破壊試験方法 JIS Z 3060 鋼溶接部の超音波探傷試験方法	試験は、水道工事標準仕様書第Ⅱ編 4.3.7(検査)のとおり実施する。	水道工事標準仕様書第Ⅱ編 4.3.7(検査)による。 判定は、JIS Z 3060 の3類以上とする。	水道工事標準仕様書第Ⅱ編 4.3.7(検査)の(2)のウ(記録)による。 試験成績表を提出する。
		エポキシ樹脂塗装(内面塗装)	下地処理検査	塗装箇所ごと。	水道工事標準仕様書第Ⅱ編 4.3.4(無溶剤形エポキシ樹脂塗装)による。 1 溶接により生じたヒュームが除去されていること。 2 スラグ除去、ビードの著しい凹凸が整形され、スパッタ、仮付けピース跡などの塗膜に有害な突起が除去され、平滑に仕上げていること。 3 ほこり、泥、水分、油分の付着がないこと。 4 工場無塗装部を SSPC-SP11 の等級に仕上げていること。 5 工場プライマー部で、焼損、発錆、鋼面が露出した部分は、プライマーを除去し、SSPC-SP11 の等級に仕上げていること。 6 工場塗装部及び工場プライマー部(健全部)は、表層のみ面粗していること。 7 工場塗装部の面粗し範囲は幅25mmとし、端部はテープをつけていること。	無溶剤形エポキシ樹脂塗装 JWWA K 157 WSP 072 タールエポキシ樹脂塗装 JWWA K 115 JWWA K 135 ジョイントコート JWWA K 153 ジョイントコート(長寿命形) JIS G 3443-3 JWWA K 153 WSP 012 試験成績表を提出する。現場塗装部については、チェックシートを作成し提出する。
			外観検査		水道工事標準仕様書第Ⅱ編 4.3.7(検査)による。 1 塗装表面にたれ、しわ、流れ、光沢、平滑度、変色などの有害な欠陥がないこと。 2 塗り残し、ピンホールがないこと。	

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考
			試験方法	試験(測定)の基準	品質規格	
		ピンホール及び塗り残し検査			ピンホール探知機で測定した塗膜全面について火花の発生がないこと。	
					塗膜厚(mm)	試験電圧(V)
					0.5	2000~2500
		塗膜厚検査 電磁誘導厚計又は他の測定器具	塗装箇所ごと。 円周上任意の4点 (溶接ビード除く)		塗膜厚さ0.5mm以上(硬化後)	
	ジョイントコート(外面塗装)	下地処理検査	被覆箇所ごと。		水道工事標準仕様書第Ⅱ編4.3.6(ジョイントコート)による。 1 溶接によって生じたスラグ、スパッタ、仮付ピース跡、ビード部凹凸などの有害な突起が除去又は滑らかに仕上がっていること。 2 スケール、さび、熱影響を受けたプライマーなどが除去されていること。 3 ほこり、泥、水分、油分が付着していないこと。	
		外観検査			水道工事標準仕様書第Ⅱ編4.3.7(検査)による。 1 焼損があってはならない。 2 有害な欠陥となる両端の大きなめくれがあってはならない。 3 ジョイントコートの両端から50mm以内にふくれがあってはならない。 4 工場塗装部との重ね長さは、片側50mm以上とする。 5 円周方向の重ね長さは、50mm以上とする。	
		ピンホール検査			ピンホール探知機を用いて行い、火花の発生するような欠陥があってはならない。検査電圧は、8~10kVとする。	
		膜厚検査			加熱収縮後のジョイントコートの厚さは、1.5mm以上とする。	

④ 品質管理基準表（その他）

ア コンクリート

工種	種別	試験 (測定) 種目	管 理 基 準			備考
			試験方法	試験 (測定) の基準	品質規格	
コンクリート	品質管理試験	塩化物総量 規制	「コンクリートの耐久性向上」	コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリートの打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする) 試験の判定は3回の測定値の平均値。	原則0.3 kg/m ³ 以下	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50 m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50 m³以上の場合、50 m³ごとに1回の試験を行う。 ・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCC-C502-2018 、503-2018) または設計図書の規定により行う。 ・用心鉄筋等を有さない無筋コンクリートの場合は省略できる。 <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。 (橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考
			試験方法	試験(測定)の基準	品質規格	
		単位水量測定	「レディーミクストコンクリート単位水量測定要領(案)(平成16年3月8日事務連絡)」	100 m ³ /日以上の場合;2回/日(午前1回、午後1回)以上、重要構物の場合は重要度に応じて、100 m ³ ~150 m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m ³ を超え±20kg/m ³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m ³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。なお、15kg/m ³ 以内で安定するまで」とは、2回連続して15kg/m ³ 以内の値を観測することをいう。 3) 配合設計±20kg/m ³ の指示値を超える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の配合設計±15kg/m ³ 以内になるまで全運搬車の測定を行う。なお、測定値が管理値または指示値を超えた場合は1回に限り再試験を実施することができる。再試験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。	示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm~25mmの場合は175kg/m ³ 、40mmの場合は165kg/m ³ を基本とする。

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考
			試験方法	試験(測定)の基準	品質規格	
		スランブ試験	JIS A 1101	<ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日以上、構造物と工事の規模に応じて 20 m³~150 m³ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時 	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ 8cm 以上18cm 未満：許容差±2.5cm スランブ2.5cm：許容差±1.0cm	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種※で1工種当りの総使用量が 50 m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が 50 m³以上の場合、50 m³ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。 (橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)
		コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	<ul style="list-style-type: none"> 荷卸し時 1回/日以上、構造物と工事の規模に応じて 20 m³~150 m³ごとに1回 なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6個(σ7…3個、σ28…3個)とする。 ・早強セメントを使用する場合には、必要に応じて1回につき3個(σ3)を追加で採取する。 	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。(1回の試験結果は、3個の今日死体の試験値の平均値)	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模工種※で1工種当りの総使用量が 50 m³未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が 50 m³以上の場合、50 m³ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。 (橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)

工種	種別	試験(測定)種目	管 理 基 準			備考
			試験方法	試験(測定)の基準	品質規格	
		空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	・荷卸し時 1回/日以上、構造物と工事の規模に応じて 20 m ³ ~150 m ³ ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時	±1.5% (許容差)	・小規模工種※で1工種当りの総使用量が 50 m ³ 未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が 50 m ³ 以上の場合、50 m ³ ごとに1回の試験を行う。 ※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。 (橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)
		ひび割れ調査(施工後)	スケールによる測定	本数、総延長、最大ひび割れ幅等	0.2mm	高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が 25 m ² 以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工(水管橋含む)及び高さが 3m 以上の堰・水門・樋門を対象(ただしいずれの工種についてもプレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは対象としない)とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。 フーチング・底版等竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。 ひび割れ幅が0.2mm以上の場合は、「ひび割れ発生状況の調査」を実施する。ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」により施工完了時のひび割れ状況を調査する場合は、ひび割れ状況を調査する場合は、ひび割れ調査の記録を同要領(案)で定める写真の提出で代替することができる。

工種	種別	試験 (測定) 種目	管 理 基 準			備考
			試験方法	試験 (測定) の基準	品質規格	
		テストハンマーによる強度推定調査 (施工後)	JSXEG 504-2013	鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類で行う。その他の構造物については強度が同じブロックを1 構造物の単位とし、各単位につき3ヶ所の調査を実施。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5カ所実施。材齢28日～91日の間に試験を行う。	設計基準強度	高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25 m ² 以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工 (水管橋含む) 及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象 (ただしいずれの工種についてもプレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは対象としない。) また、再調査の平均強度が、所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、コアによる強度試験を行う。工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督員と協議するものとする。

イ 既設管充填

工種	種別	試験 (測定) 種目	管 理 基 準		備考
			試験 (測定) の基準	品質規格	
既設管充填	充填の確認	圧縮強度	施工箇所 毎	充填材 エアモルタルあるいはエアミルク 圧縮強度 1.0N/mm ² 以上 注入の確認 一方に注入孔を設け反対側の端面に排出口を設けて排出口から充填材が流出した時点で完了 なお、排出口を設けることができない場合は、監督員と協議のもと注入の確認方法を決定する 充填材について事前に「配合計画書」を監督員に提出し、承諾を受けること。なお、策定した配合計画に応じた品質管理基準についても本計画書に明記する	

4. 工事写真管理基準

(1) 事前準備

① 撮影計画

受注者は、工事に先立ち、監督員と打合せのうえ測点の位置を定め、工事写真撮影計画を策定するものとする。ただし、設計図等により写真測点が定められている場合は、それに従うものとする。

策定した写真管理計画は、工事写真測点図を添付し、施工計画書とともに提出し、監督員の承認を得るものとする。

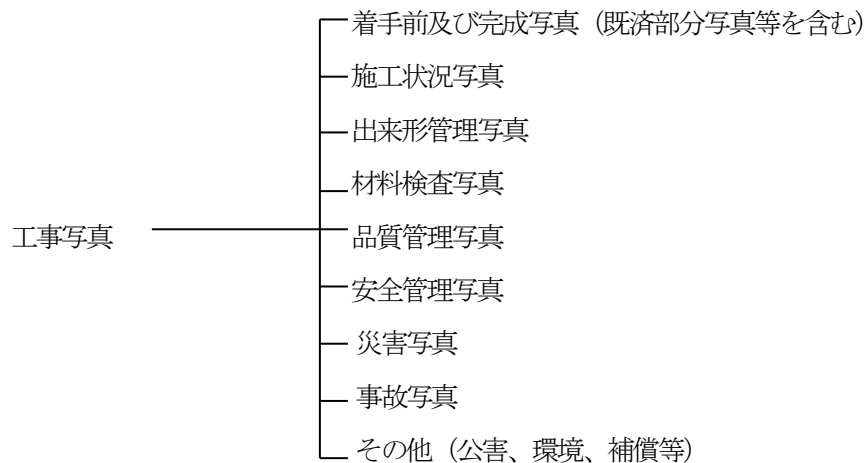
② マーキング

受注者は、承認を得た施工計画書の工事写真測点図に基づき、現場に測点番号のマーキングを行うものとする。マーキングは、撮影した写真で確認できる大きさ及び位置になるよう考慮する。

(2) 工事写真の撮影

① 工事写真の分類

工事写真は、次のように分類する。



7 着手前及び完成写真

着手前と完成後の写真は、起点から終点までの全景がわかるよう代表箇所での追写真とする。また、着手前と完成後を対比できるよう、同一の位置及び方向から撮影する。

イ 施工状況写真

施工中の状況を工事の段階に合わせて全景又は代表部分で撮影する。なお、具体的には、工事進捗状況、工法、使用機械、仮設物写真等を撮影する。

ウ 出来形管理写真

出来形管理基準に基づき、所定の形状及び各工種毎の幅、高さ、厚さ等の寸法を撮影する。

エ 材料確認写真

工事に使用する材料の確認の実施状況及び確認された形状寸法等を撮影する。

オ 品質管理写真

品質管理基準に基づいて行った試験又は測定状況及び測定値を撮影する。

カ 安全管理写真

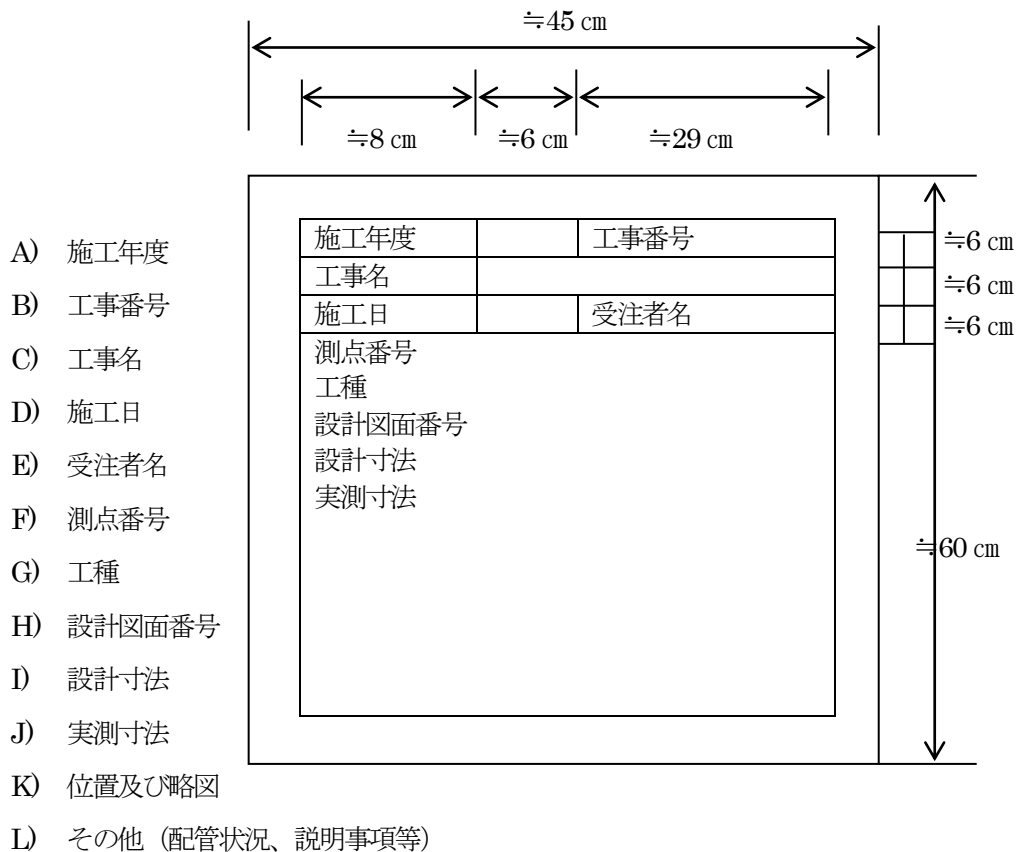
安全管理状況の確認のために撮影する。具体的には、各種標識類、保安施設、交通誘導員等の交通整理状況写真がある。

キ 災害・事故・その他

災害関係、事故関係、補償関係、環境対策、現場環境改善関係等を撮影する。

② 撮影内容の明示

撮影にあたっては、原則として、次の項目のうち必要な事項を黒板（デジタル工事写真の小黒板も可とする）に記載し、文字・図が判読・識別可能となるよう被写体と共に写し込むこと等により、撮影内容を明示するものとする。



M) お客様名、お客様番号

(3) 工事写真の撮影要領

工事写真の撮影は、①から⑥の表を標準とする。ただし、次のことに留意するものとする。

- 1) 撮影項目及び撮影頻度は、標準を示したものである。
- 2) 記載のない工種については、類似工種を準用するものとする。
- 3) 特殊な場合で監督員が指示するものについては、指示した項目、頻度で撮影する。

① 着手前及び完成写真

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
着手前	/	全景	着手前	各測点	着手前、完成後の比較ができるよう同一方向から撮影する。
完成後		全景	完成後		

② 施工状況・出来形管理写真

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
土工事	施工状況	舗装切断工	切断状況	施工中	各測点 (つぼ掘り部を除く)	
		舗装取壊し工	施工状況			アスファルト厚さ明示
		掘削工 (既設路盤)				路盤厚さ明示
		掘削工 (既設路床)				
		埋戻し工	締固め状況		各測点 (つぼ掘り部を除く) の各層毎	
		路盤工				
		仮復旧工				各測点 (つぼ掘り部を除く)

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
土工	出来形	試掘工	(布設状況) 寄り、土被り、 呼び径、企業名、 (掘削状況) 幅、深さ、長さ	掘削完了後	施工箇所毎	
		舗装切断工	切断深さ	施工後	各測点	
		掘削工	幅、深さ	掘削完了後	各測点及び伏せ 越し等により土 工断面が変化す る箇所	
		埋戻し工	厚さ、仕上り状況	締固め完了 後	各測点	
		路盤工	厚さ、仕上り状況			
		瀝青材料散布工	仕上り状況	施工後	各測点	
		仮復旧工	幅、仕上り状況			
仮設工事	施工状況	土留工 (矢板工) 仮締切り工	設置状況 撤去状況	施工中	施工箇所毎 *ただし、施工延 長が 50m以上の 場合は各測点	
		覆土工	施工状況		施工箇所毎	
		防護工				
	出来形	土留工 (矢板工) 仮締切り工	基準高、変位、根 入長、腹起し・切 梁の間隔、設置状 況	設置後	施工箇所毎 *ただし、施工延 長が 50m以上の 場合は各測点	
		覆土工	舗装面との摺付け 状況	施工後	施工箇所毎	
		防護工	防護状況 防護間隔			
配管工事	施工状況	管布設工	管の吊おろし・据 付け作業	施工中	各測点	管の吊おろし について配水 用ポリエチレン管は 除外する
		水替工	使用ホップ、 排水状況		施工箇所毎	
		不断水工	作業状況			
		撤去工	撤去管の土被り 管の吊上げ		各測点	

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考	
配管工事	施工状況	塗装工 (内、外面)	施工状況	施工後	施工箇所毎		
		出来形	管布設工	管据付け状況（寄り、土被り）	据付け完了後	各測点	
	異形管の配管状況 (全異形管)			配管完了後	異形管の配管の 全てが撮影で き、配管状況の確 認が可能となる 回数		
	管の明示		明示テープ貼付け状 況	貼付け完了 後	各測点		
	ポリエチレンスリーブ 被覆工		仕上り状況	施工後			
	埋設標識シート設 置工					給水管分岐後 の再設置含む	
	不断水工					水圧試験を含 む	
	仮配管分岐工		仕上り状況 (土被り等)	施工前			
			コア挿入状況				
	仮配管布設工		布設状況（寄り、 土被り）	施工後	各測点		
	撤去工	撤去後の状況					
	弁栓類設置工事	出来形	弁栓類設置工	仕上り状況	施工後	施工箇所毎	
			ボックス積工	積上げ状況			
コンクリート工			仕上り状況 幅、長さ、高さ				
基礎工							
弁室設置工			仕上り状況				

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
給水管工事	出来形	給水管分岐工	仕上り状況 (土被り、ポリ刈復元)	施工後	施工箇所毎	※お客様名及びお客様番号を記載する。 ※布設工は官民境界部の土被りを撮影する。 (注1)メータ二次側の鉛管取替の場合は、新設の配管状況と共に撮影する。また、メータ一次側の撤去状況は、別工種と共に撮影してもよい。
			コア挿入状況 (配ポリは不要)	施工前		
		給水管布設工	布設状況 (土被り)	施工後		
		止水栓(メータ)まわり	配管状況	施工後(メータボックス設置の前後)		
			逆止弁付バック設置状況	施工前		
		メータ移設工	配管状況	施工後		
		給水管撤去 (メータ二次側の鉛管取替含む)	撤去状況(注1) (管種、口径、延長)			
水管橋及び橋梁添架工事	施工状況	下部工躯体	施工状況	施工中	適宜	
		水管橋工場製作	製作状況	製作中	適宜	
		塗装	塗装状況	施工中	適宜	
		架設	搬入状況	搬入時	適宜	
			支承受付状況	取付後	1カ所に1回	
			地組状況	地組中	適宜	
			けた架設状況	架設中	1カ所に1回又は架設工法が変わるごとに1回	
	出来形	下部工躯体	基準高、幅、厚さ 高さ、長さ	型枠取付後	1基に1回	
		水管橋工場製作	原寸	原寸検査時	1橋に1回又は1工事に1回	
			仮組立寸法	仮組立検査時	1橋に1回又は1工事に1回	

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考	
		塗装	材料使用量 (塗装缶)	使用前 使用后	全数量		
			外観状況(塗替)	施工前 施工後	部材ごと 1スパンに1回		
			塗装厚	測定後	各層部材ごと 1スパンに1回		
		架設	キャンパ等	架設後	1スパンに1回		
推進工事	施工状況	立坑工 (支圧壁)	施工状況	施工中	施工場所ごと		
		推進設備工	施工状況	施工中	施工場所ごと		
		仮設	電気設備、連絡通 信 設備、安全設 備、運搬設備、排 水設備、送排泥設 備、泥水処理 設備 の設置状況	施工中 施工後	施工場所ごと		
		刃口	施工状況	施工中	施工場所ごと		
		掘削	施工状況	施工中	30mに1箇所 30m未満は2箇 所		
		裏込注入	施工状況	施工中	30mに1箇所 30m未満は2箇 所		
	出来形	支圧壁	幅、高さ、長さ、厚 さ、基準高	施工後	施工場所ごと		
		刃口	外径寸法、ひずみ	設置前	施工場所ごと		
		裏込注入	発進、到達口 厚 さ、仕上り内径	施工後	施工場所ごと		
	シールド工事	施工状況	立坑工 (支圧壁)	施工状況	施工中	施工場所ごと	
			シールド設備工	シールド機据付、シ ールド機本体等の設 置状況	施工中 施工後	施工場所ごと	

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考	
		仮設	電気設備、連絡通信設備、安全設備、運搬設備、排水設備、送排泥設備、泥水処理設備の設置状況	施工中 施工後	施工場所ごと		
		鏡切	施工状況	施工中	施工場所ごと		
		推進	施工状況	施工中	50mに1箇所 50m未満は2箇所		
		一次覆工	組立状況	施工中	50mに1箇所 50m未満は2箇所		
		二次覆工	施工状況	施工中	50mに1箇所 50m未満は2箇所		
	出来形	支圧壁	幅、高さ、長さ、厚さ、基準高	施工後	施工場所ごと		
		二次覆工	厚さ、仕上り内径	施工後	施工場所ごと		
	地盤改良工事	施工状況	薬液注入（	施工機械設備状況	施工中	実施箇所ごと	
				薬液注入状況（注入位置、深さ、全景）	施工中	実施箇所ごと	
観測井設置状況及び地下水質観測状況				施工中	実施箇所ごと		
改良工			薬液注入に準ずる	施工中	実施箇所ごと		
			改良部の床付け状況	施工中	実施箇所ごと		
出来形		薬液注入	注入位置深さ（ロッド ³ 検尺）	施工後	実施箇所ごと		
			観測井深さ（ロッド ³ 検尺）	施工後	実施箇所ごと		
		改良工	厚さ、施工範囲	施工後	実施箇所ごと		

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考	
基礎杭工事	施工状況	試験杭	打込み、継手作業 支持力試験状況	施工中	実施箇所ごと		
		既製杭	打込み、継手状況 支持力試験状況	施工中	適宜		
		場所打杭	掘削、配筋、コンクリート打込み状況等	施工中	適宜		
		地中壁工	組立、溶接、コンクリート打込み状況等	施工中	適宜		
	出来形	試験杭	杭長		施工前	施工箇所ごと	
			基準高		施工前	施工箇所ごと	
		既製杭	杭長		施工前	全数量	
			基準高、位置		施工後	全数量	
			杭頭処理		施工後	全数量	
			数量		施工後	全数量	
		場所打杭	掘削深さ		打設前	全数量	
			配筋		組立後	1 施工単位 1 回	
			基準高、位置		打設後	1 施工単位 1 回	
			杭頭処理		打設後	1 施工単位 1 回	
		地中壁工	掘削深さ		打設前	全数量	
			芯材(長さ)		施工前	1 施工単位 1 回	
			基準高、位置		打設後	1 施工単位 1 回	
			数量		完了後	1 施工単位 1 回	

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
			壁面外径	完了後	1 施工単位 1 回	
基礎工事 (構造物)	施工状況	床付	施工状況	施工中	適宜	
		砕石基礎	施工状況	締固め中	適宜	
		コンクリート基礎	施工状況 (均し及び本体コン クリート)	施工中	適宜	
	出来形	床付	基準高	施工後	適宜	
		砕石基礎	幅、高さ	施工後	適宜	
		コンクリート基礎	基準高、幅、高さ	施工後	適宜	
コンクリート工事 (構造物)	施工状況	鉄筋工	配筋、組立、継手、 圧接状況	施工時	施工単位当り 1 回	
		コンクリート工	打込状況、締固状 況、テストピース採取及 び試験、養生状況	施工時	適宜	
		モルタル工	施工状況	施工時	適宜	
		型枠工	組立状況	施工時	適宜	
	出来形	鉄筋工	位置、間隔、組立 寸法、継手寸法	組立後	適宜	
		コンクリート工	基準高、幅、高さ 長さ、厚さ	打設後	適宜	
		モルタル工	基準高、幅、高さ 長さ、厚さ	打設後	適宜	
		型枠工	断面寸法、鉄筋か ぶり	組立後	適宜	
防水工	施工状況	防水工	各層ごとの施工状 況	施工中	適宜	
	出来形	防水工	各層ごと 幅、厚 さ、長さ	施工後	適宜	

工種	区分	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
び 残 土 ・ 残 塊 ・ 廃 プ ラ ス チ ッ ク 類 及 び ス ク ラ ッ プ 処 分	施 工 状 況	保管場所	保管状況 (全保管物)	施工中	保管場所 1 か所 毎	
		搬出	積込状況			積込完了後
			処分地	積載状況 車両全景	積載中	
そ の 他	出 来 形	支障物件	位置、寸法及び処 理状況	掘削後	施工箇所毎	
		地下埋設物等防 護工	仕上がり状況	施工後		

③ 材料確認写真

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
材料置場	配管材料 仮設材料 埋戻し材料 路盤材料等	保管状況及び置 場の全景	保管中	置場毎	水道施設工事 共通仕様書 のとおり保管
水管橋及び橋 梁添架	配管材料等	管材料検査	施工前	搬入ごと	
推進工事	配管材料等	管材料検査 (推 進用管、さや管)	施工前	1 路線 1 回	
シールド工事	配管材料等	一次覆工材の検 査	施工前	1 工事に 1 回	
		二次覆工材の検 査	施工前	1 スパンに 1 回	
地盤改良工事	注入材等	材料検査	施工前	搬入ロットごと	
	改良材等	材料検査	施工前	実施箇所ごと	
塗覆装	管塗装	材料検査 (使用塗料)	施工前	全数量、各層 ごと	

※やむを得ず監督員等の臨場が得られない場合は、外観等の品質を証明する写真を撮影し、机上確認を受けること

④ 品質管理写真

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
コンクリート (施工)	スラブ試験	試験実施状況	試験実施中	コンクリートの種類毎に1回	
	空気量試験				
	強度試験	供試体	採取時		
		試験実施状況	試験実施中		
	塩化物含有量試験				
骨材粒度試験			工期中に1回 (現場練りのみ)		
コンクリート (施工後試験)	ひび割れ調査	試験実施状況	試験実施中	対象構造物毎に1回 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)構造物工編(試行)」により施工完了時の状況(全周)の提出によりひび割れ調査写真を代替することができる。	
				テストハンマーによる強度推定調査	対象構造物毎に1回
	コアによる強度試験	供試体	採取時	テストハンマー試験により必要が認められた時	
基礎工	既製杭	浸透探傷試験(カチチェック)	試験後	5箇所	1回
		放射線透過試験(継杭溶接)	〃	〃	全数量
		超音波探傷試験	試験中	〃	〃
鉄筋コンクリート	配筋	外観試験(圧接)	試験中	1施工単位	1回
		供試体(圧接)	作成後	全数量	
		引張試験(圧接)	試験後	全数量	(破断写真)
		超音波探傷試験	試験中	試験ごと	1回
水管橋(鋼橋)	材料試験	試験実施状況	試験実施中	試験項目ごと	1回

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
	高力ボルト締付け	締付け確認状況	締付け作業中	主要部材ごとに1回	
	現場溶接	試験実施状況	試験実施中	〃	
水管橋及び橋梁添架	水管橋	接合部検査状況	施工後	実施箇所ごと	
	橋梁添架	管接合部検査状況	施工後	実施箇所ごと	
管布設工	配管工	水圧試験状況	試験実施中	実施箇所毎	
管接合工	鋳鉄管接合工	接合状況	測定中	継手形式別呼び径毎に1か所	プッシュオンは挿入位置 メカニカルトルク管理 融着はインジケータ隆起
	ラゲ設置工	施工状況	施工中		
	切管加工(挿口加工含む)	仕上り状況	施工後		
	融着継手工	施工状況	通電中		
	フランジ継手工	接合状況	施工中		
管溶接工	鋼管溶接工	ルート間隔目違い測定状況 余盛り	施工後	溶接箇所ごと	
塗覆工	管塗装	検査状況(膜厚、ピンホール、接着)	施工後	全数量	
使用機械	建設機械	機械全景	施工中	指定機種毎	指定条件等が確認できるように撮影する。
既設管充填	充填の確認	排出口からの充填材の流出	施工中	施工箇所毎	
	圧縮強度	試験実施状況	試験実施中	試験実施時	1.0 N/m ² 以上

⑤ 安全管理写真

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
安全管理	保安設備	各種標識類・保安施設等の設置状況	設置後	種類毎に1回	
	交通誘導員	交通整理状況	作業時	路線毎	

⑥ 災害・事故・その他写真

工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	備考
災害	被災報告	被災状況及び被災規模等	被災後	その都度	可能であれば直後を含める。
事故	事故報告	事故の状況	発生後		
その他	補償関係	被害又は損害状況等	発生後		
	現場環境改善等	各施設設置状況	設置後		

(4) 撮影時の留意点

工事写真の撮影は、次の事項に留意する。

① 施工状況写真

施工の位置及び状況が容易に確認できるよう家屋等を背景に入れて撮影する。なお、1枚で状況が確認できない場合は、組写真にする。

また、矢板及び杭等の施工状況を撮影する場合は、番号及び寸法を表示し各段階の施工状況が、判別できるようにする。

② 出来形管理写真

構造物等については、リボンテープ等を目的物に添え、寸法が正確に確認できる方法で撮影する。この場合、位置が確認できるように、丁張り又は背景を入れ、黒板等には目的物の形状寸法及び位置（測点）等を記入する。

段階確認及び立会について、不可視部分を含め監督員等が臨場して確認した箇所は、状況写真及び出来形管理写真の撮影を省略できるものとする。

③ 品質管理写真

検査・試験・測定等を行っている全景及び規格・基準等と照合又は対比して確認できるように近距離から撮影する。監督員が確認している場合は、監督員を含めて撮影する。公的機関（試験認定機関）で実施した品質証明書を保管整備する場合は、撮影を省略できる。

④ 撮影時期

撮影者は、写真撮影の目的を十分に理解し、常に、工事の進捗状況、施工内容を把握して、撮影時期を失しないようにする。特に、工事施工後、明視できなくなる箇所については、埋め戻し等の前に、撮影漏れがないか十分に確認するものとする。

⑤ 撮影位置

撮影はできる限り同一方向から行う。特に、同一箇所を施工の各段階で撮影する必要がある場合は、位置が確認できるように、同一背景を画面に入れる。また、測点での撮影では、測点番号のマーキングが確認できるようにする。

寸法確認等の写真は、なるべく被写体の中心で、しかも直角の位置から撮影する。

⑥ 部分撮影

ある箇所の一部を詳細又は拡大して撮影する必要がある場合には、その箇所の全景を撮影したのち、必要な部分の位置が確認できるように撮影する。

⑦ 撮影時の照明

夜間工事及び基礎工事の撮影については、特に照明に注意し鮮明な映像が得られるようにする。なお、フラッシュ撮影をする場合は、反射光及び現場内の逆光を受けない角度で撮影する。

⑧ 緊急報告の写真

事故等で緊急にその状況を報告する必要がある場合は、インスタント写真を用いることができる。

(5) 工事写真等の提出

① 工事写真の原本

工事写真の原本が電子データの場合は、電子媒体に記録し、撮影内容がわかるように写真一覧（コマ撮りにしたもの）とともに提出する。

② 工事写真

写真は整理しアルバムに編集して提出する。提出する写真の大きさは、Lサイズとする。ただし、着手前と完成後の写真は、必要に応じて2Lサイズ又はパノラマ写真（つなぎ写真可）とすることができる。また、監督員が指示するものは、その指示した大きさとする。

③ アルバム

原則として4切版のフリーアルバム又はA4版とする。

アルバムには、表紙に施工年度、工事番号、工事名、工事場所、工期、施工業者名及びアルバム番号を記載する。また、背表紙には、施工年度、工事番号、工事名及びアルバム番号を記入する。

④ 提出部数

受注者は、工事完成後に編集したアルバムを1部提出するものとする。ただし、監督員が指示する場合は、その指示した部数とする。

(6) 写真の整理

工事写真は、次の事項に留意し整理する。

① 撮影写真の確認と保管

撮影済みのフィルム等は、速やかに現像し、目的に合った写真が撮れているか確認するものとする。また、現像後、直ちに整理し、監督員が随時閲覧できるように保管するものとする。

② 写真の整理方法

- A) 写真の貼付にあたっては、その内容又は工種毎に見出しをつけ、工事写真測点図と照合できるよう、アルバムに測点番号を付ける。
- B) アルバムは、目次、見取り図、案内図、断面図、構造図及び出来形図等を、余白への記入又は別紙の添付で挿入すること等により状況を補足説明し、見やすく整理する。
- C) 着手前及び完成後の写真は、対比できるように整理する。
- D) 施工状況、出来形管理写真は位置・測点・工種及び種別に整理し、工事過程が容易に把握できるようにする。
- E) 材料検査、品質管理、安全管理等の写真は、それぞれに分類して整理する。
- F) 品質管理に関するものは一括して整理する。

(7) その他注意事項

- A) 工事写真は、カラーとする。

- B) 電子媒体による写真については、必要な文字、数値等の内容の判読ができる機能、精度を確保できる撮影機材を用いるものとする。（有効画素数 100 万画素以上、プリンターはフルカラー600 d p i 以上、インク・用紙等は通常の使用条件のもとで3年間程度に顕著な劣化が生じないものとする。）なお、これら電子媒体の機能等については、監督員の承諾を得るものとする。
- C) 撮影項目、撮影頻度等が工事内容により不適切な場合は、監督員の指示により追加、削減するものとする。
- D) 不可視となる出来形部分については、出来形寸法が確認できるよう、特に注意して撮影する。
- E) 工事写真自体の編集を行ってはならない。ただし「(8) デジタル工事写真の黒板情報電子化基準」に基づく黒板情報の電子的記入はこれに当たらない。

(8) デジタル工事写真の黒板情報電子化基準

① 目的

デジタル工事写真の黒板情報電子化は、受発注者双方の業務効率化を目的に、被写体画像の撮影と同時に工事写真における黒板の記載情報の電子的記入および、工事写真の信憑性確認を行うことにより、現場撮影の省力化、写真整理の効率化、工事写真の改ざん防止を図るものである。

② 対象

デジタル工事写真の黒板情報電子化を行う場合は、工事契約後、監督員の承諾を得たうえでデジタル工事写真の黒板情報電子化対象工事（以降、「対象工事」と称する）とすることができる。

- A) デジタル工事写真の黒板情報電子化の導入に必要な機器は受注者が選定し、調達するものとする。
- B) ソフトウェア等（以降、「使用機器」と称する）については、「4. 工事写真管理基準 (2)工事写真の撮影②撮影内容の明示」、土木工事施工管理基準「写真管理基準」に示す項目の電子的記入ができること、かつ信憑性確認（改ざん検知機能）を有するものを使用することとする。なお、信憑性確認（改ざん検知機能）は、CRYPTRECが公開している「電子政府における調達のために参照すべき暗号のリスト(CRYPTREC 暗号リスト)」に記載している技術を使用していること。
- C) なお、使用機器の事例として、一般社団法人施工管理ソフトウェア産業協会が公開している「デジタル工事写真の信憑性確認(改ざん検知機能)検定合格ソフトウェア一覧」を参照すること。ただし、この使用機器の事例からの選定に限定するものではない。

D) 使用機器導入等に要する費用は技術管理費における共通仮設費率計上分に含まれるものとする。

③ 取扱い

小黑板情報の電子的記入の取扱いについては「4. 工事写真管理基準(2)工事写真の撮影」に準じる。

④ 記入項目

受注者は、上記②C)の使用機器を用いてデジタル工事写真を撮影する場合は、被写体と小黑板情報を電子画像として同時に記録してもよい。小黑板情報の電子的記入を行う項目は、「4. 工事写真管理基準(2)工事写真の撮影」、土木工事施工管理基準「写真管理基準」による。

⑤ 納品

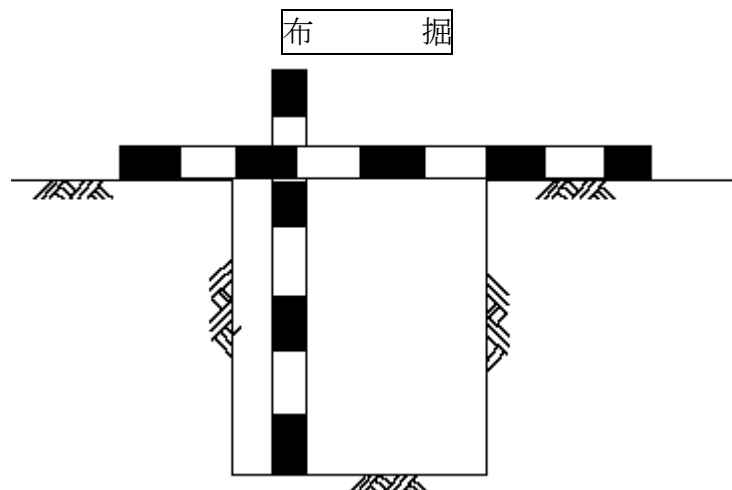
納品については電子黑板写真及び電子黑板写真を管理したビューアソフトとする。また受注者は「一般社団法人施工管理ソフトウェア産業協会が提供しているチェックシステム（信憑性チェックツール）」等を用いて電子黑板写真の信憑性確認を行い、その結果を書面で監督員に提出することとする。なお、提出された信憑性確認の結果を、監督員が確認することがある。

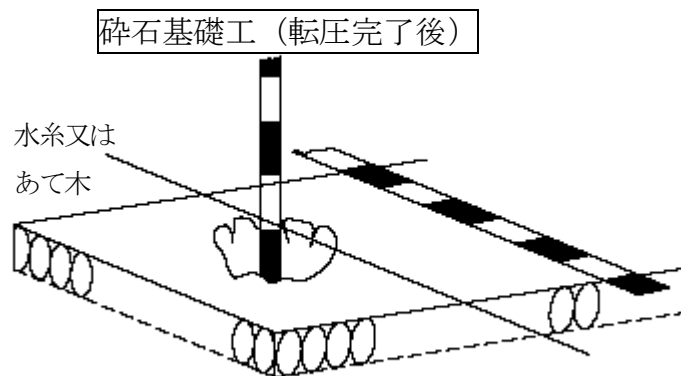
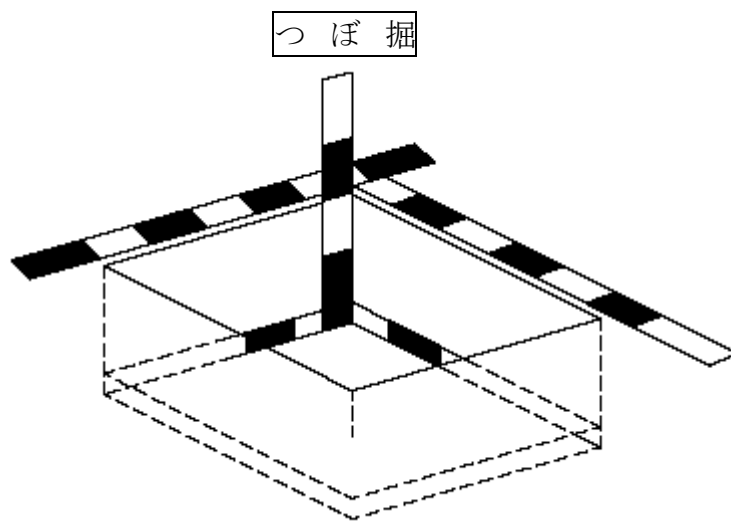
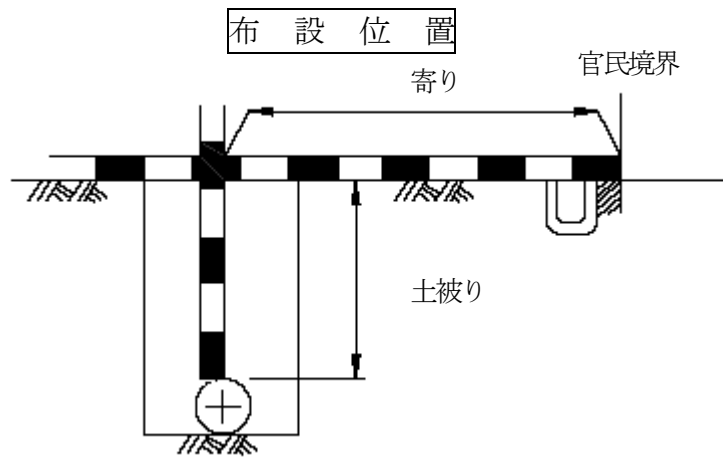
(9) 電子納品

電子データの納品については堺市上下水道局電子納品運用指針に基づくこと

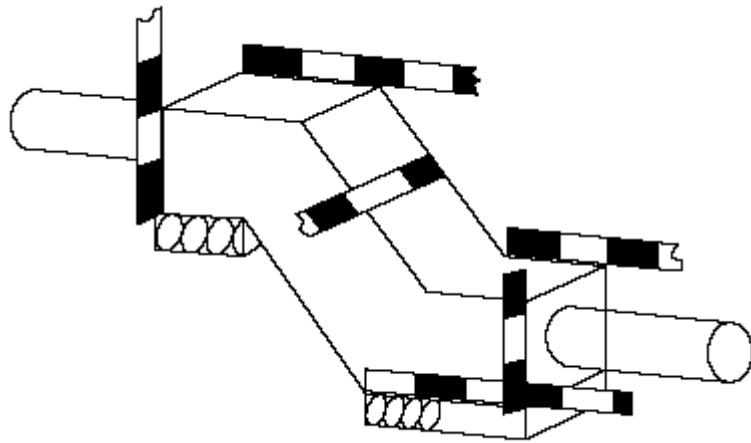
(10) 写真撮影方法（例）

代表的な一例であり工事の種類、規模、施工条件、現場の状況により、受注者がそれぞれ工夫して目的を達せられるように撮影すること。





主要部形状寸法



5. 出来形管理表と品質管理表（チェックシート）（例）

出 来 形 管 理 表

- ① 出来形管理表（土 工 事）
- ② 出来形管理表（弁・栓類）
- ③ 出来形管理表（弁・栓類 ジョイントボックス）

6. 品質管理表（チェックシート）

- ① G X形継手(直管・P - Link)(ϕ 75~450)チェックシート
- ② G X形継手(異形管・G - Link)(ϕ 75~450)チェックシート
- ③ G X形継輪(ϕ 75~450)チェックシート
- ④ NS形継手 (ϕ 75~250) チェックシート
- ⑤ NS形継手 (ϕ 300~450) チェックシート
- ⑥ NS形継ぎ輪 (ϕ 75~450) チェックシート
- ⑦ NS形継手(ϕ 500~1000) (直管) チェックシート
- ⑧ NS形継手(ϕ 500~1000) (ライナ、異形管) チェックシート
- ⑨ NS形継ぎ輪(ϕ 500~1000)チェックシート
- ⑩ K形継手チェックシート
- ⑪ 大平面座形フランジ継手チェックシート
- ⑫ 溝形フランジ継手チェックシート (メタルタッチの場合)
- ⑬ 溝形フランジ継手チェックシート (メタルタッチでない場合)
- ⑭ K形(離脱防止押輪)チェックシート
- ⑮ K形(二つ割離脱防止押輪)チェックシート
- ⑯ NS形継ぎ輪(ϕ 75~450)(離脱防止押輪)チェックシート
- ⑰ NS形継ぎ輪(ϕ 500~1000)(離脱防止押輪)チェックシート
- ⑱ EF 接合チェックシート

⑱ メカニカル接合チェックシート

⑳ 鋼管継手部チェックシート

上記品質管理表の内①～⑰の継手形式は日本ダクタイル鉄管協会の、⑱の継手形式は配水用ポリエチレンパイプシステム協会の、⑳は日本水道鋼管協会のホームページより最新のものがダウンロードできます。また、⑱提出時はコントローラでの融着継手記録（トレーサビリティ）も提出すること。⑲については別紙「メカニカル接合チェックシート（参考）」を参考に作成すること。

上記及び日本ダクタイル鉄管協会等のホームページに記載されていない品質管理表（チェックシート）に関しては、監督員と協議して作成すること。